

A watercolor illustration of a mountainous landscape. The background features large, layered mountains in shades of green and blue. In the middle ground, there is a school building with a white facade and a dark roof, partially obscured by several trees with brown and green foliage. The foreground is filled with a field of golden-yellow grass or wheat. The overall style is soft and artistic, typical of watercolor painting.

# ふろさと上多度

養老町立 上多度小学校



## 発刊のことば

上多度小学校長 萩 永 正 保

この「ふるさと上多度」は、上多度小学校の中学年以上の子が、社会科の勉強をする時に役立て、学習のねらいを達成しやすくするために副読本として作りしました。

みなさんのほとんどは、この上多度に生まれ、上多度の自然環境や地域社会の人々とのまじわりを通して成長してきました。だから上多度は、かけがえないふるさとなのです。

このふるさと上多度に住む人々の生活は、上多度の自然と深く結びついたりうえで営まれていきます。生産活動や消費生活も文通・文化・経済の発達などにより多様な変化と進歩をしてきました。今日のようになる前は、どんな様子だったのだろうと誰もが思うでしょう。現在の上多度をよく知るためには今までの歴史をよく知ることが必要です。

自分のふるさとをよく知るために、自分の眼で見ることのできない過去の姿をこの本によって知り、上多度に住んだ先人のすばらしい努力や郷土愛をいろいろ学んでほしいものです。

この本を利用することによって、ふるさとを正しく理解するとともに、ふるさとを愛し、ふるさとの発展を願い実践する子どもに成長してくれることを願っています。

昭和59年 上多度小学校周辺



## 目次

発刊のことば

一、上多度の自然

- (一) 学校の屋上から……………一
- 学校の位置      • 扇状地に広がる上多度
- 舟も通った津屋川      • 勉強のめあて
- (二) 温暖な気候……………七
- (三) 動植物……………八
- ハリヨ
- (四) 土地の成り立ち……………一一
- (五) 土地利用のようす……………一四
- 山地      • 扇状地      • 開かれる西小倉
- 津屋川と舟つき場      • 伊勢街道(桑名街道)
- 平地―三郷      • 生まれかわる上多度

二、上多度の人々のくらし

- (一) 人口の移りかわり……………二三
- 人口増加の西小倉、鷺巣(駅前)      • 上多度の人口
- (二) 家の仕事調べ……………二五
- 農家のおじいさんの話
- 会社つとめのおじいさんの話
- (三) 農家の仕事……………三一
- 畑作地域      • 米作地域
- ① 上多度の米づくり
- 海拔ゼロメートル地帯      • 耕地整理
- 昔の米づくりのようす
- 新しい米づくりのようす
- これからの米づくりと問題点
- ② 柿づくり
- 柿づくりにあう土地
- 一年中続けられる柿の木の世話

・柿果樹出荷組合（農協）

③ 養蚕

・昔の養蚕      ・今の養蚕

④ 家畜を飼育する農家

・上多度で飼われている家畜

・にわとりを飼う農家

・乳牛を飼う農家

⑤ 山の仕事

・しいたけ栽培

(四) ものをつくる仕事 …………… 五九

(五) 店の人たちの仕事 …………… 六〇

・買い物調べ      ・上多度にある店

・駅前のお店

(六) つとめに出る人々 …………… 六三

・家族の仕事調べ      ・乗り物の利用

(七) 上多度の人たちのくらしを支える …………… 六八

① 上多度出張所

② 上多度公民館

③ 上多度駐在所

④ 西南濃粗大廃棄物処理センター

⑤ 消防団

三、上多度のうつりかわり

(一) 大昔の上多度 …………… 七三

・原始時代      ・山麓に広がる古墳

・小倉古墳      ・若宮古墳

・小倉山光明寺      ・源義朝と源氏橋

(二) 江戸時代以後の上多度 …………… 七八

① 新田開発

・有尾新田      ・津屋新田（横屋新田のこと）

・鷺東北畑新田、南畑新田      ・大跡新田

・下池の干拓

② 年貢の決め方

・年貢

(三) 現代の上多度 …………… 八三

① 各部落のなりたち

- ・小倉
- ・鷺巣
- ・田
- ・有尾
- ・横屋
- ・西小倉
- ・若宮
- ・船見
- ・一色

② 交通

(四) 水とのたたかい……………九〇

① 低い揖斐川

- ・御囲堤
- ・上多度の輪中
- ・水害

② 洪水の時の工夫

- ・高屋敷
- ・水屋
- ・屋敷森
- ・あげ仏壇
- ・あげ舟
- ・水防倉庫

四、学校のうつりかわり

(一) 明治のはじめ……………一〇〇

- ・〇〇学校となったところ
- ・学校に反対する人たち
- ・テストで進級、高い授業料

(二) 義務教育となったところ……………一〇三

- ・授業料無料
- ・義務教育六年
- ・大正時代の学校
- ・昭和の初めころ
- (三) 戦後の上多度小学校……………一〇八

- ・六三制
- ・水谷文庫の贈本始まる
- ・伊勢湾台風などで三郷地区水没
- ・学校給食始まる
- ・読書で優秀賞を受賞
- ・プールや新校舎完成

五、上多度の文化……………一一四

- ・鷺巣白山神社
- ・白山太鼓
- ・のぞき仏(延寿観世音菩薩)
- ・薬師堂
- ・左義長
- ・有尾八幡神社
- ・赤岩神社
- ・金堀山
- ・小倉高札場跡(町指定記念物)
- ・小倉八幡神社

六、上多度の生んだ人……………一二二

- ・大牛和尚
- ・鬼面山谷五郎

- 鷺巢玄光
- 寺倉孫左衛門
- 日比七兵衛
- 野村龍諦
- 憩山
- 中村常三郎
- 田中準三
- 松本一郎
- 水谷三郎
- 日比連運
- 田中省吾
- 栗田秀畝
- 西谷加一
- 日比三十木

参考資料

- 一、郷土上多度精神 日比屋ゑ乃
- 二、子どもの仕事 日比屋ゑ乃

上多度小学校の位置

・東経 136°24'16"  
 ・北緯 35°16'12"  
 ・海拔 10 m

上多度の位置

養老町の西南部に位置し、南は南濃町、西は養老山地をこえて、上石津町や三重県下北勢町に隣接しています。北に養老地区及び広幡地区、東は笠郷地区、池辺地区

一 上多度の自然

(一) 学校の屋上から

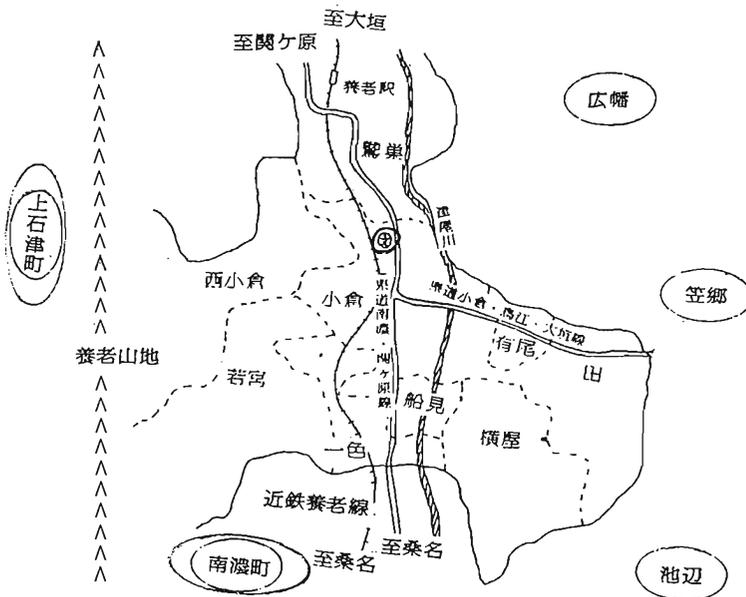
学校の位置

学校の屋上に乗ってみると、上多度小学校の校下や養老町のほとんどを見わたすことができます。また、もっと遠くの大垣や岐阜なども見えます。

遠く北の方を見ると、たくさん山々が重なり、一番近くにけずられて茶色になっている赤坂山が見えます。この山で採れる石灰石を原料にして、「石灰」を作っています。以

上多度校下略図（昭和六〇年）

(約一〇万分の一)



## 濃尾平野

揖斐川、長良川、木曾川によってできた平野で、岐阜県、愛知県にまたがっています。名古屋市を中心とした中京工業地帯があります。

前は大理石もとれました。

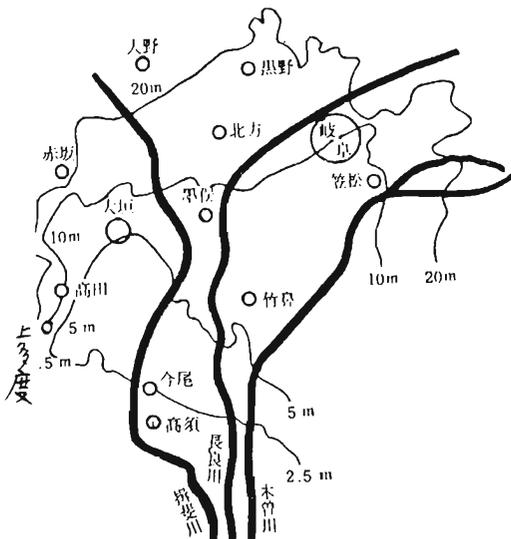
東の方には、平らな土地が広くどこまでも続いています。そこには、揖斐川や長良川、木曾川がおびのように北から南に向かって流れています。そこは、日本第二の面積をもつ「濃尾平野」です。

北東には、大垣の共立銀行のノッポビルが白く光って見えます。もう少し遠くの山のでっぺんには、岐阜城を小さくのぞむことができます。またその向うには、御岳山、北アルプスの山々を望むことができます。

南の方へ目をうつすと、わりあい近い所に山があって、ずっと南の方へのびています。おとなりの町、海津郡南濃町津屋の方へ続い

## 西濃地方の等高線

上多度地区は低地（〇メートル）から扇状地（一〇メートル）山地へと続いています。



養老山地

約二億年前の古世代に海底に砂や粘土、生物の死がいが堆積し、それがもり上がってできた山地です。  
 海拔八五〇メートル  
 だけわしい断層が多い。

単位 m	南 北	東 西	高 度
北 部	10000	7000	850
南 部	15000	6000	650

ています。西の方には、すぐ目の前に高い山がせまっています。見あげるばかりのけわしい養老山地です。山のむこうは、私たちと同じ養老郡の上石津町です。

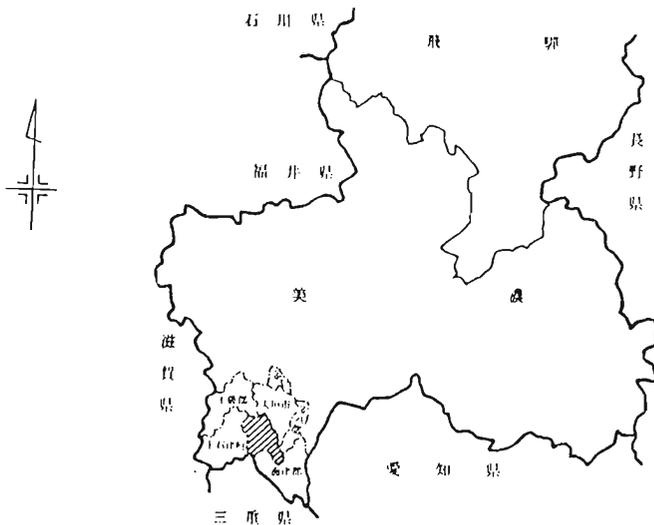
扇状地に広がる上多度

少し近くへ目をうつして見ましょう。

北には、おびのように流れる牧田川のこちらに高田の町が見えます。養老町の中心になる町で、役場や消防署、養老中央病院などのたものがあります。高田の方から近鉄養老線が走り、学校のすぐ近くを通っています。

東の方には、国道二五八号線や東部中学校

養老町位置図



近鉄養老線

大垣から桑名まで  
八八ページ参照

国道二五八号線

大垣から桑名まで約  
三七キロメートル

扇状地

川が山地から平地へ  
流れるところにできた  
ゆるやかな傾斜地、石  
が多く水もちが悪い。

が見えます。笠郷や池辺地区です。

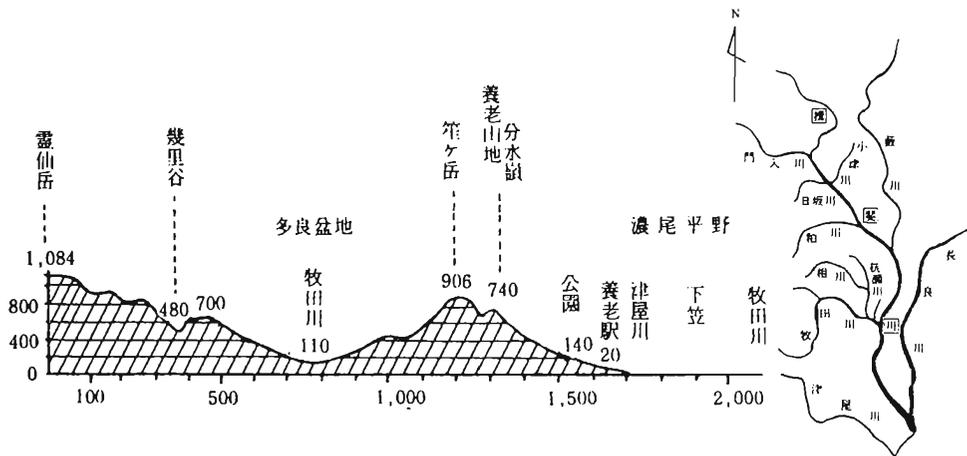
学校のすぐ南には、小倉谷があります。ふ  
だんは、水のない空谷ですが大雨が降った時  
などは、ガラガラと石を押し流しながら音を  
立てて流れます。

小倉谷の両側は、山すそから坂になって、  
広く、畑地がひろがっています\*。「扇状地」  
といい、谷の出口から扇のような形にこの土  
地は広がっています。

これが私たちの校下、上多度です。

舟も通った津屋川

扇状地のいちばん下に、津屋川が流れてい  
ます。そんなに大きな川ではありませんが、



養老山地の断面図

揖斐川のおもな川

昔は舟も通っていました。

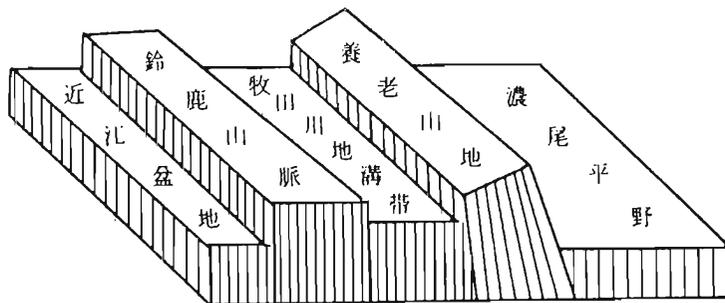
津屋川から東は、一だんと低くなっている  
広々とした低地です。濃尾平野の一ばん西の  
はしにあたる所です。

この平地は海の高さとほとんど変わらない  
低地です。ずっと昔には、大水が出て村中水  
につかってしまったこともあります。

しかし、ここは上多度地区の田んぼも多く、  
くらしをささえてきた大切な土地なのです。

### 勉強のめあて

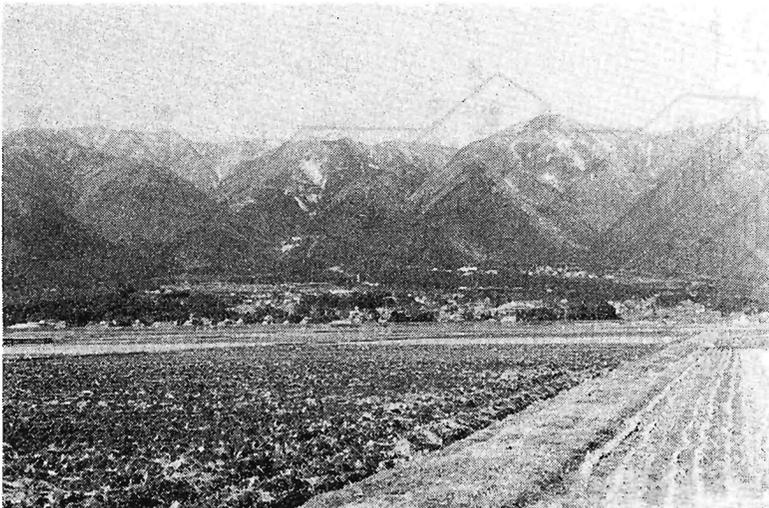
こうして見てくると、ふるさと上多度の土地  
のようすが少しわかったような気がします。



養老地壘と鈴鹿地壘

隆起と断層によってできた養老山地

この土地でくらす私たちの生活は、どうな  
っているのでしょうか。私たちの気づかないと  
ころで、大人の人たちはすみよい上多度にす  
るために、どんな努力どりょくをしてみえるのでし  
う。



養老山地から流れ出た土砂ででき  
た扇状地

(大跡新田おおあとより養老山地を望む)

### 表日本式気候

太平洋沿岸地方の気候。夏は南東の風が強く、雨が多く気温が高い。

冬は、北西の風が強くと、雨の日は少なく、晴の日は続きます。

### 裏日本式気候

日本海側や北九州地方の気候。夏はフェーン現象で気温がとて高くなる。

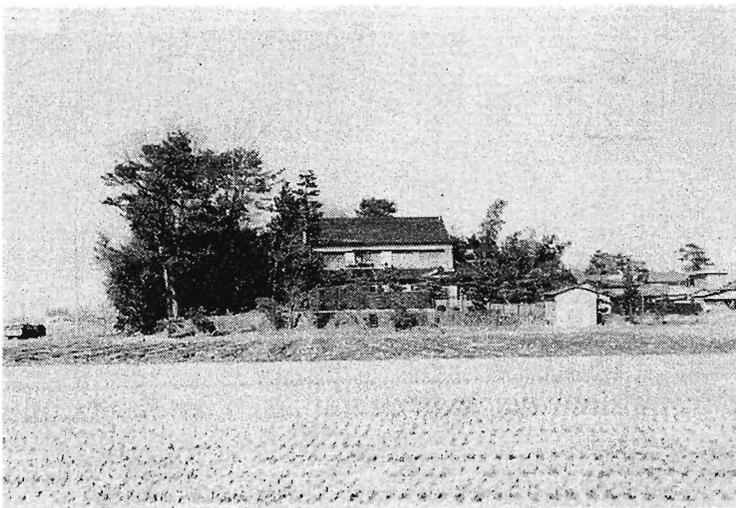
冬は、北西の風が強くと雪や雨の多い気候。

## (二) 温暖な気候

上多度の気候は、一年のほとんどは表日本式気候といって温暖な気候です。夏は南風が吹いて暑く温度が高くて寝苦しい夜が多いのです。冬はよく晴れて乾燥した日々が続きます。

春さきから夏にかけての梅雨時や台風時には、大量の雨が降って津屋川が大水になったり、せつかく植えた田が冠水したりすることがあります。

取り入れが終わる秋から冬にかけては、若狭湾にふき込む強い北西の風が、伊吹山の間をぬけて濃尾平野に吹き出します。



北西の風を防ぐ屋敷森

表日本式気候  
P 7 参照  
裏日本式気候  
P 7 参照

この寒い季節風のことを人々は伊吹おろしと呼んでいます。雪の量はそれ程多くはないのですが、伊吹おろしと共に養老山をつたうようにして雪が降ってきます。雪の多い年で四〇センチメートル前後です。村の人々は家の北西側に木を植えたりして、この風を防ぐ工夫をしています。

### (三) 動植物

上度は、\*表日本式気候と\*裏日本式気候の入りまじる地域にあるので動植物の種類は大変多いのです。

それに、土地のなりたちが山地、扇状地、



校庭に積った雪

ウシモッコ

コイ科モツゴ属で体長五―七センチの小魚モロコの仲間。

南濃町と養老町境の農業用水路で発見（昭六〇、三）絶滅寸前の淡水魚となっています。

平地、池、湧水地と変化が多いので、それだけ種類も豊富だといえます。

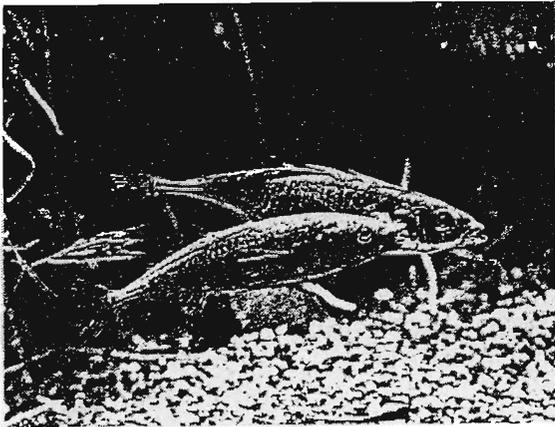
その中でも珍しい生きものに、ハリヨがいます。

ハリヨ

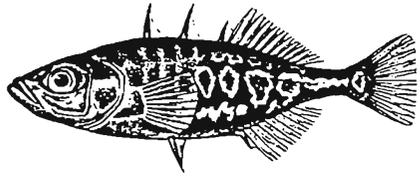
ハリンコ、ハリンバ、カワサバなどとも呼ばれ、岐阜県では養老町近辺、大垣市矢道町、南濃町、滋賀県醒ヶ井付近や三重県など水のきれいな川だけに住んでいます。

上多度では、鷺巣、小倉、一色などの湧水地（河間）にいます。成長したもので体長約六センチメートルで、水温十四度〜十八度、川底の砂まじりの多いところに住んでいます。

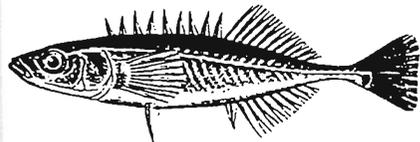
●トゲウオのながま 水のつめたいきれいな川にすむ。最近、きれいな川が少なくなり、数がへっている。



イトヨ 全長約7cm。川や湖で一生をすごすものと、海へくだるものがある。北海道と、島根県より北の本州にすむ。



ハリヨ 全長約6cm。岐阜、三重、滋賀県の水のあるきれいな川にすむ。川で一生をすごす。



トミヨ 全長約6cm。北海道、東北、北陸の水のあるきれいな川にすむ。川で一生をすごす。

ほたるの生源地

昭和二五・六年ごろまでは、津屋川のほとりや湧き水にたくさんのはたるが飛びかい、夏の風物詩でした。

大きいのは源氏ほたる、小さいのは平家ほたるです。

ほたるの幼虫の餌である「かわにな」（まき貝の一種）が絶え、ほたるもいなくなったのですが、近ごろ、また六・七月ごろ稲田の上を飛びかう姿が見られるようになりました。

この魚の珍しいところは、子どもを生むころになると、雄のからだの色が変わり、卵を生む時には、ジクザグダンスと呼ばれる行動をすることや、巣を作って卵を産み、親がこれを守るといふ習性をもっていることです。また、近年水のきれいなところにすむ「ほたる」も見られるようになりました。



河間（扇状地の伏流水がわき出る）

#### (四) 土地の成り立ち

前にも述べたように上多度の地形は、西は高く急でけわしい養老山地につながり、東は少し長雨が降ると水があふれ排水機の力を借りなければならぬ低地です。

その中間は、小倉谷、瀧谷、今熊谷が土や砂を運んで出来た扇状地です。

養老山地は、海底が隆起し、のちに断層によって出来た山です。そのために急で険しい山になっていきます。その地質は、ほとんどが水成岩で化石を含む石灰岩（海底にあった）やチャート（生物の死がいがかたまつた固い岩石）がたくさんあるのが特徴です。



## 津屋川

昭和三〇年ごろまでは、水量も豊かで、水もきれいな川でした。

津屋川も井戸水として汲みあげられるなどして湧水も少なくなりました。

今では、生活用水なども流れ込み、どぶ川のようになってしまいました。一刻も早くもとのような津屋川になるよう整備が望まれています。

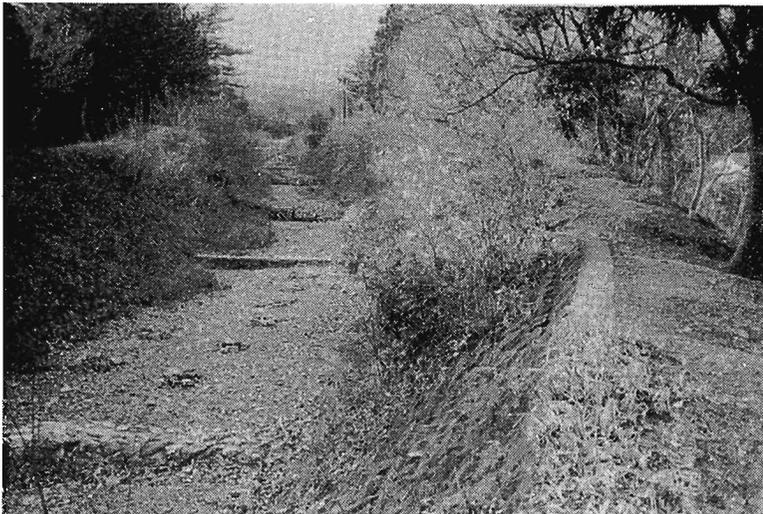
小倉谷をはじめとする谷は、養老山地から流れ出す水でできた谷です。多くの土や砂を運びだして出来た大きな扇状地が、わが郷土上多度です。

小倉谷にいつも水がないのは、地下水となつて扇状地の下を流れ（伏流）<sup>ふくりゅう</sup>ているからです。そしてこの水は扇状地の下の端<sup>はし</sup>で湧き出て（河間）<sup>がま</sup>いて津屋川<sup>つやがわ</sup>となつて流れます。

この河間は、昔は鶯巢、小倉、一色の人々にとつては、暮<sup>く</sup>しや米づくりになくなくてはならない水だったのです。

津屋川は、農業<sup>のうぎょう</sup>や交通<sup>こうつう</sup>の上で、人々のくらしに大きな影響<sup>えいよう</sup>を与えてきました。

\*三郷<sup>さんきょう</sup>の低い平らな土地は、大昔は海の底<sup>そこ</sup>で



地下水となつてしまうので、水のない「小倉谷」

### 堆積

川底に土砂が積ってできた土地です。今でもボーリングすると砂の層や貝がらが出てきます。

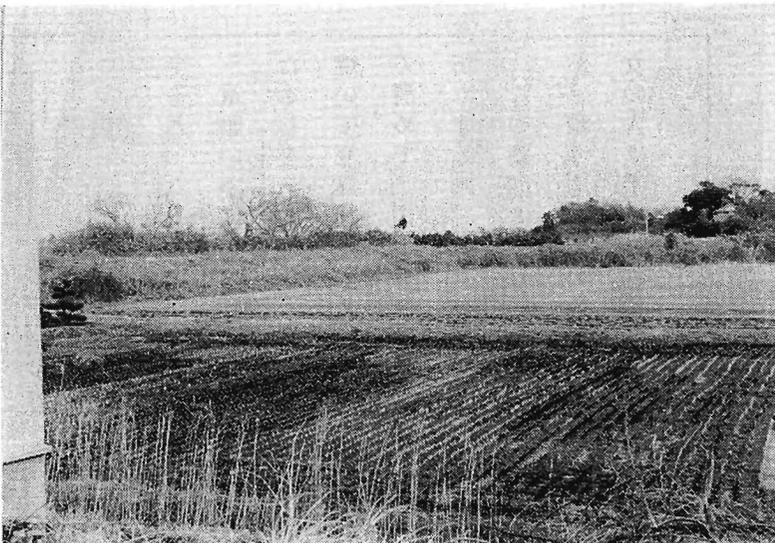
また、海拔も低いので満潮時には潮水が湧き出たという話もあります。

それに、水草などが埋まり腐って出る天然ガスを燃料に利用したともいわれています。

### 三郷

田、横屋、有尾の三地区をまとめて三郷といっています。

したが、長い間に牧田川や揖斐川の運んだ細かい土や砂がたまって（堆積）できたのです。今の三郷は、低地で起伏が少なく、いつも水害の心配をしながらの生活が続いてきました。村の人々が協力して、永年水とのたたかいを続けてきました。



水害から三郷をすくった堤防

## 山の仕事

昭和初年までは、稲作以外は現金収入の道もなく、一般農民は、土工に出るか山仕事に出るしかありませんでした。

植林や杉や檜の枝打ち、下草刈、冬から春にかけては、薪の生産をしました。

(五七ページ参照)

## (五) 土地利用のようす

上多度の人たちは、山地、扇状地、平地から成る土地を、どのように生かして生活しているのでしょうか。

### 山地

断層でできた険しい山々には、桧、杉、も植林されていますが、多くは自然林で松の木が広く育っています。山ぞいの多くの人たちは、昭和三〇年ぐらいまでは農閑期には山に入ってこれらの木々の世話や植林、伐採、薪づくりなどをしてきました。

そのため、これらの木材を利用する仕事と

## 山の講

昭和二〇年頃まで行われていた

旧暦の十一月四日、山仕事の安全を祈った行事。

重箱いっぱいのかも大きなぼたもちを三つ重ねとし、サンマを焼いて豆腐汁をそえ、マッチの火で清めて、山の神に供えて安全を祈りました。

この調理はすべて、男が行い、おさがりも、男のみがいただき、女の人には手をふれませんでした。

### スプリンクラ

雨の少ない時などに使われるかんがい用の自動散水機。

### グリーンハイツ

昭和四八年養老町小倉に国民年金保養センターとしてオープン。低料金で多くの人達のいこいや保養に利用されています。

(電二一三一八)

して、製材所や大工、指物屋（木工所）が多かったのです。

また山林の利用としては、そのほかしいたけの栽培もさかんに行われています。

ほのぐらい山林の中に、しいたけの原木を数多くねかし、乾燥を防ぐために谷水をひいてスプリンクラ\*でかけている所もあります。

山地の一番すそは、空気も澄み、濃尾平野のながめもすばらしいのでグリーンハイツや大垣共立銀行の研修所がたてられ保養地にもなっています。

### 扇状地

扇状地のいちばん下の端、津屋川のほとり



林の中に井げた組まれたしいたけの原木

の湧水の多く出る所は、昔から人々の住む所として集落がかたまっています。鷺巢、小倉、一色、船見がそうです。

この村々をつなぐ曲がりくねった県道の両側に家が集ってたっています。

集落から扇状地の上の方へかけての土地は、谷のはこんだ砂や小石が多く耕地としては、よくない土地です。

この土地は、ほとんど住宅や畑として利用されています。家々の近くは野菜畑、遠くなるにつれて、柿、栗、梅などの果樹や茶、桑などが栽培されています。

昭和三〇年代までは、桑の栽培が特にさかんで、ほとんどの農家が蚕をたくさん飼育し



扇状地にひろがる茶畑（西小倉）

太平洋戦争

昭和一六年から昭和二〇年まで日本が東南アジアに進出しようとしたのに反対したアメリカ、イギリス、オランダと戦争になりました。

日本は敗れ、昭和二六年サンフランシスコで講和条約が結ばれました。

ていましたが、今では数少なくなりました。

(四八ページ参照)

昭和五〇年代一番さかなのは、柿づくりでした。

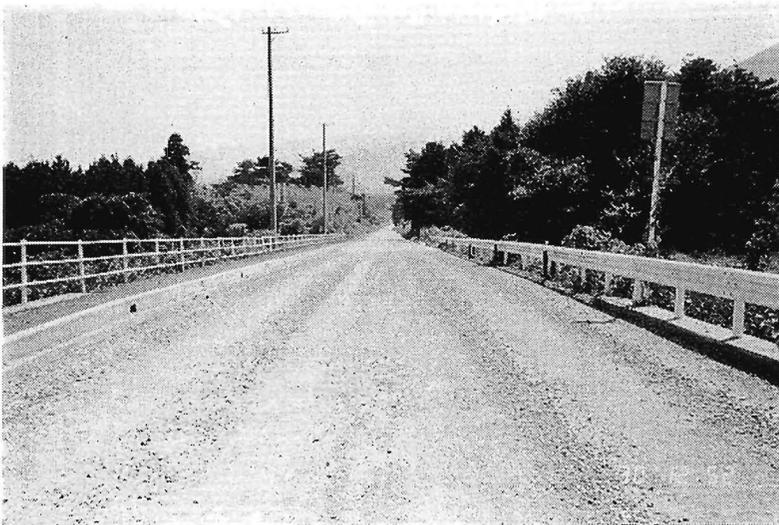
開かれる西小倉

扇状地せんじょうちの上の方は、若宮をのぞいて人はあまり任んでいませんでした。

しかし、\*太平洋戦争が終わり海外から帰って来た人々が入植ひやくしよくするようになりました。

(八六ページ参照)今の西小倉がそうです。

家々の並び方が、ほかとちがって規則正きそくせいしいのもそのためです。今では新しい道路(南濃・関ヶ原線)が完成かんげいに近づいています。



完成間近い山麓道路

(南濃・関ヶ原線)(昭五九)

広くまっすぐの道だから、きつとたくさん  
の車が通ることでしょう。そうして、今より  
も多くの店や家が建ち並ぶことが予想されま  
す。

#### 津屋川と舟つき場

大昔から物資の輸送は、舟にたよってきま  
した。今は津屋川の流れは細く浅くなってい  
ますが、昔は舟の往来もはげしく、川藻もな  
い水量も多いきれいな川でした。

村々には荷物の積み下ろしをする舟つき場  
があり、米や木材、薪などを桑名や名古屋に  
運び、塩や土管・砂糖・魚などを買入れてき  
て陸上げしました。



明治三六年〜昭和二二年の校舎  
(有尾)

上多度尋常小学校（有尾現ライスセンター）

### 山越えの馬道

養老山越えの馬道といわれ、舟つき場で下ろされた品物は、山越えで上石津の多良の方まで馬の背につけて運ばれました。

小倉谷から三峰山に登る急な坂道を今も「馬道」と呼んでいます。

燈明様は、昔の舟つき場の名残りで、その付近は船頭さんの家（鷺巣一色）や宿屋があり、ちょっとした集落にもなっていたようです。その荷物は山越えして多良へも運ばれました。

### 伊勢街道（桑名街道）

大昔の伊勢街道は、人々が集落を作って住んでいて、養老山地のふもとを通過していました。（今の自然歩道）

人々が米づくりに便利な下の方に移り住むようになり、扇状地の端に集落ができるようになりますと、伊勢街道は、新しくできた集落をつなぐ街道になりました。そうして、この街



昭和の初めごろまで船つき場であった「燈明様」（一色）

## 江戸時代

徳川家康が、一六〇三年に江戸幕府を開いてから一八六八年、東京と変わるまでの二六四年間。

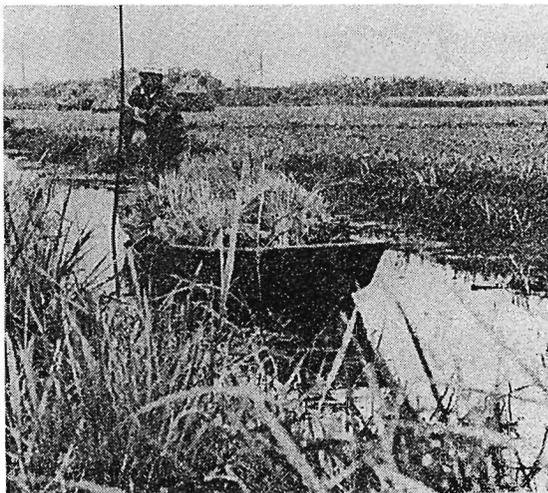
道が桑名街道とも言われるようになりました。

### 平地 ― 三郷

有尾・田・横屋は、江戸時代にできた村といわれています。津屋川の堤防から東は、笠郷・池辺へかけて見わたすかぎりの平地です。牧田川や揖斐川がはこんだ細かい土は、よくこえていて米づくりに大へん適しています。夏から秋にかけての早苗田や黄金に波うつ稲穂は、みごとなものです。

また、秋から春にかけての冬季には、麦やれんげが栽培されますが、これも昭和三〇年代からだんだん少なくなりました。

今は見わたすかぎりの平らな田んぼですが、



田へのゆき来や農産物・肥料などを運んだ「舟」

## 池や堀田

寛永二一年に、大がかりな新田開発がありました。

泥をとって堤防を築いたり、うめたてて田を作ったので回りに池や堀田がたくさん作られました。

低地で土や泥を取るところがなく近くの土や泥をとって高くしたのです。

昭和三〇年代のはじめまでは、<sup>\*</sup>池や堀田が田んぼの中にたくさんありました。今のような長方形の田ではなく、まがりくねった形をしていました。

だから田へ行くにも舟を使うことが多かったようです。今では水はけをよくする施設もつくられ、きちんとしきられた田では、トラクターやコンバインなどの農業機械<sup>のうまようがけ</sup>を利用した米作り農業<sup>のうまよう</sup>が行われています。

## 生まれかわる上多度

昔から上多度地区に住むおじいさんたちは、仕事の仕方もかわり交通も大変便利になった



トラクター  
昭和五二年度第二次農業構造改善事業として三郷営農組合が購入

## 公害

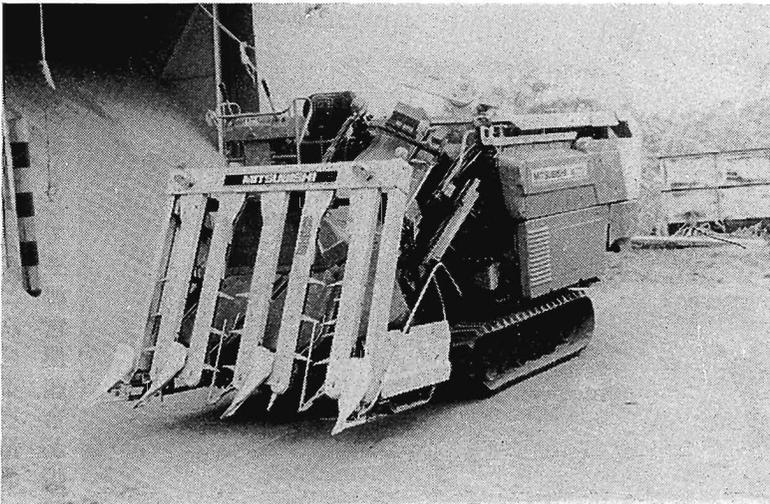
住宅や工場などが出す騒音、悪臭、汚水などのためにまわりの人たちが迷惑すること。水俣病、イタイイタイ病など全国的な社会問題となっています。

と、昔とのちがいににおどろいています。

昭和四十年代になって、村のところどころに工場が建つようになり、お母さんたちもそこで働いています。

広い土地、豊かな水、働く人たちを求めて工場が進出して来たのです。

上多度が生まれかわっていく姿なのですが、<sup>\*</sup>公害など新しい心配も生まれて来ています。

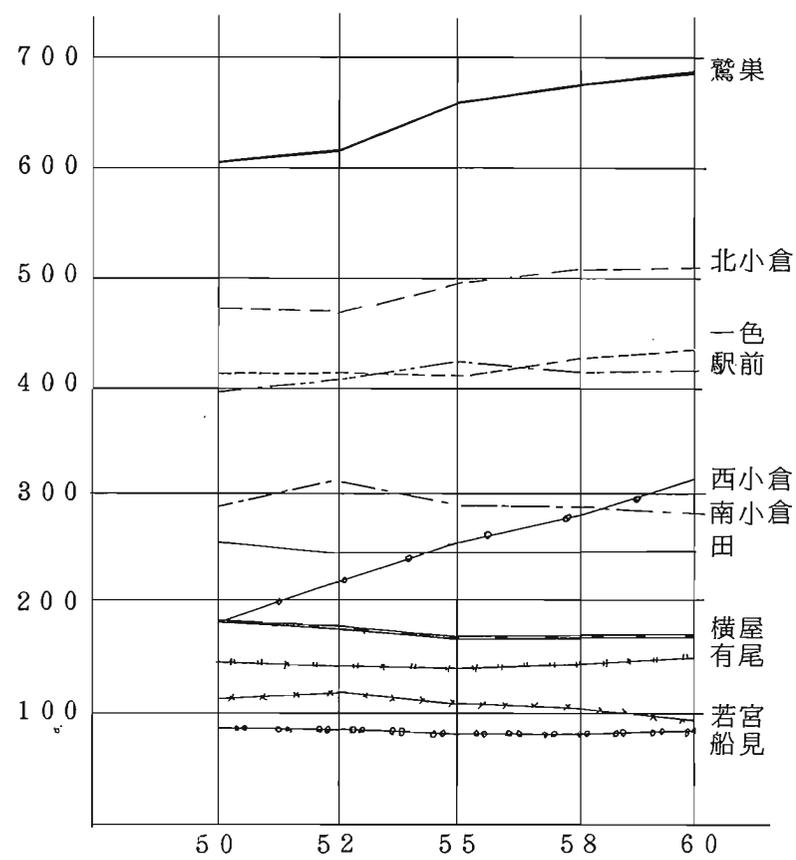


コンバイン

(三郷宮農組合所有)

地区別人口の移りかわり

上多度出張所調べ（昭 60・5）



二 上多度の人々の暮らし

(一) 人口の移りかわり

上多度地区では、養老駅前しょうやてんがいの商店街しょうてんがい、鷺巣小倉、一色、船見ふねみの半農半住宅地はんのうはんたけぢ、三郷さんごうの農村地帯そんちたいに大きく分けることができます。

人口増加の西小倉・鷺巣（駅前）

別表べつひょうをみると、最近一〇年間では、西小倉の人口ののびが目立ちます。

これは開拓の歴史れきしが新しく、戦後せんごになってひらけだしたと、山麓さんろく道路どうろの開通かいつうが間近まじか

上多度の 人口と世帯数	年度	30	35	40	45	50	55	60
	男	1329	1639	1519	1449	1524	1598	1649
	女	1279	1547	1507	1517	1594	1673	1724
	合計	2608	3186	3026	2966	3118	3271	3373
	世帯数	489	613	630	650	696	744	772

で、今までの山地が住宅地として開発され  
新しい住宅が建ちだしたこと、道路沿いに商  
店が建ちはじめたことなどが原因と思われる  
す。

#### 上多度の人口

養老町全体の人口の増加率は、過去一二年  
間で一二パーセントですが、上多度地区は八  
パーセントと平均をやゝ下まわっています。

これは、新しく移住してくる人が少なく、  
昔から住みついている人が多いということ  
です。

男女の比率は、女子が男子を大きく上まわ  
っています。これは、女子の方が平均的寿



全線開通間近い山麓道路  
店なども建ち始めた（昭六〇）

養老町民憲章

わたしたちの町養老町は、緑の山、清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちのこの美しいふるさととは、先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは、愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて未来につづく明るい町にしましょう。

一、おはよう、こんにちははと元気な声がわく町にしましょう。

一、美しい自然の中で力いっぱい働ける町にしましょう。

一、おとしよりが豊かにくらせる町にしましょう。

命<sup>いのち</sup>がながい関係<sup>かんけい</sup>からでしょう。

こうしたお年よりが明るく元気に暮<sup>く</sup>らせるような住<sup>す</sup>みよい町づくりを上多度地区のみんなで考えていかなければなりません。

(二) 家の仕事調べ

次ページのグラフを見ると、どんなことがわかるでしょう。

- おじいさんの若いころ（昭和三〇年ごろ）にくらべて、今のお父さんたちのつとめ先のはんいがずい分遠くまで広がっています。
- 昔は、電車や自転車がかような人が多かった

上多度地区高齢者人口調べ（65歳以上）

（昭60.9.15現在）

区別 要項	鷺 巢	駅 前	北 小倉	南 小倉	西 小倉	有 尾	田	横 屋	若 宮	船 見	一 色	計	割 合
男 人	32	21	23	17	20	10	12	9	3	3	17	167	10.0
女 人	44	29	41	16	17	8	24	11	7	5	30	232	13.5
計 人	76	50	64	33	37	18	36	20	10	8	47	399	11.8
地区割合 %	11.5	11.7	12.7	11.5	12.0	12.9	14.5	12.0	10.5	9.9	10.5	11.8	

けれど、今は自家用車がふえました。

・職業では、専業農家がへって、会社につとめる兼業農家がふえてきました。

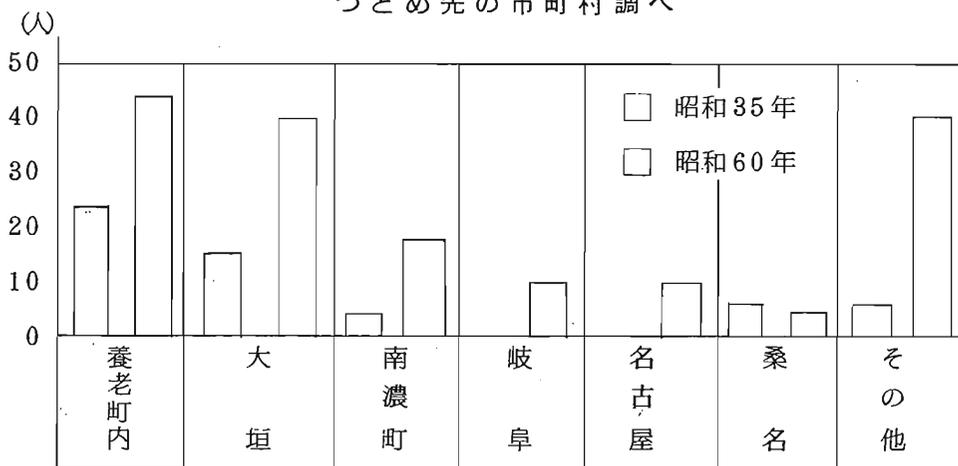
このようなことを確かめるために、近くのおじいさんに昔のことを聞きました。

### 農家のおじいさんの話

おじいさんの若いころ（昭和二五年ごろ）は、耕作用の牛を一頭かかっていました。水田面積は、今と変わりません。今のように、トラクターもなく、田おこしは、牛や馬の力をたよりにしていたのです。

畑では麦を作っていたので、麦のとり入れと田植えとが続き、とても忙しい毎日でした。

つとめ先の市町村調べ



（昭和59年度在籍児童の家族の調査）

田植えは、水のつごうもあって、短い期間で植えなくてはいけないし、田植え機もないので、たくさんの人手が必要でした。

家の人だけではできないので、手伝いの人を二、三人たのみました。朝は早く四時ごろから、夜は遅く八時ころまで働きました。

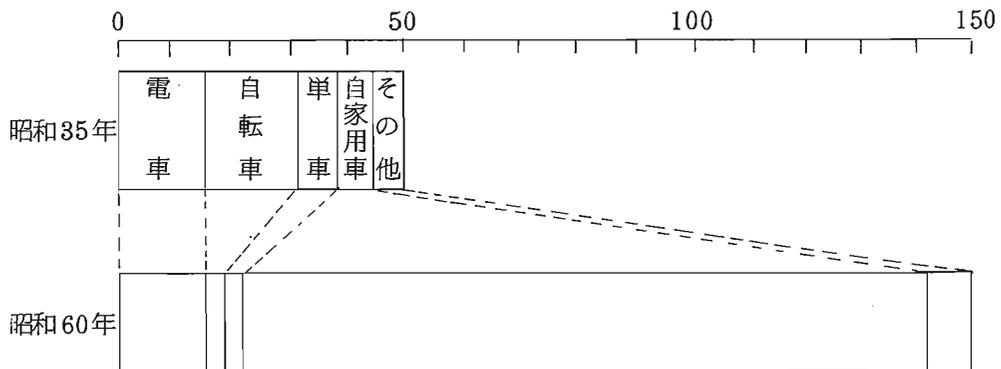
子供も仕事がたくさんあって、おじいさんの小学生のときは、農繁期休みが一週間くらいありました。

今は、田おこしも田植えも稲かりも機械化され、人手も働く日数も少なくてすむようになりました。

しかし、トラクターやコンバイン、田植え機などの機械にかかるお金は、とてもたくさん

つとめ先への交通手段調べ

(人)



(昭和59年度在籍児童の家族の調査)

んです。

衣食住いしょくじゅうにかけるお金も、年々多くなってきました。そこで、おじいさんは、つとめに出るようになりました。

今は、おじいさんとおばあさんで農業をして、お父さんは、日曜日に手伝っています。

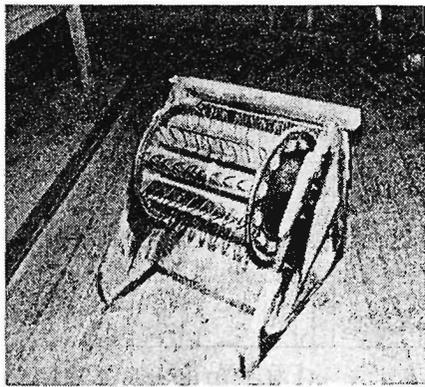
うちと同じように専業農家せんぎょうのうかから兼業農家けんぎょうのうかへ変わる家も多くなりました。

毎月、きちんとお金が入るようになって、テレビ、洗たく機せんたくか、冷蔵庫れいぞうこ、ステレオなどの電化製品も次々そろうようになり、農家の生活水準かっすいじゆんもたかくなりました。

おじいさんの小学生のころは、おもちゃもなく竹馬たけうまや竹とんぼなどを自分で作ってあそ



動力脱穀機



足踏の脱穀機

おやつ

昭和三〇年頃までの  
おいしいおやつに「お  
へぎ」や「あられ」が  
ありました。

正月餅をつく時に赤  
青、黄の色粉を入れた  
手造りの「おへぎ」や  
「あられ」をつくって  
乾かし保存しておき、  
焼いておやつにしたの  
です。とても楽しみに  
していたおやつでした。

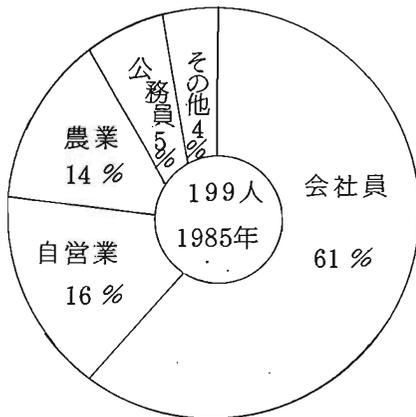
びました。

\*  
おやつも、今のようなお菓子はなく、さつ  
まいも、とうもろこし、スイカなど、家でと  
れたものがほとんどでした。  
今は、\*  
おやつもお金を出して買うことが多  
くなりました。

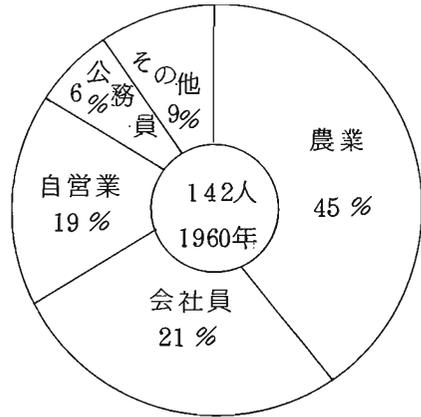
会社つとめのおじいさんの話

おじいさんの若いころ（昭和二五年ごろ）  
は、会社につとめる人より、農業の人の方が  
たくさんでした。

車も、今はほとんど一軒に一台はあるけれ  
ど、昔は、車のある家も少なくて、電車や自  
転車を利用する人がほとんどでした。



おとうさんの仕事



おじいさんの若いころの仕事

(昭和59年度在籍児童の家族の調査)

高田<sup>たかた</sup>まで自転車ですとめに出ていた人もいました。おじいさんも、養老<sup>やうらう</sup>駅まで自転車で行って、電車で大垣の会社まで通いました。

道路も今のようにはそうしてなくて、ガタガタのこぼこ道で、自転車に乗るのも大変<sup>たいへん</sup>でした。

今は、お父さんが名古屋まで車で通っているけれど、どの道もきれいにはそうしてあって、遠くてもらくに行けるようになりました。昔は、買い物も、たまに電車で大垣へ行くくらいでしたが、今は車で、家族<sup>かぞ</sup>そろって出かけることもあります。

食料品も、日曜日にショッピングセンターなどでまとめて買い、冷<sup>ひや</sup>ぞう庫<sup>くら</sup>へ入れておく



養老駅（朝夕の通勤通学や休みの日の観光客でにぎわう）

ようになりました。

このように、昔と今では、仕事もつとめ先のはんいも交通手段も変わり、生活の様子も変わってきました。

### (三) 農家の仕事

上多度の地形は、津屋川をさかいにして、東側に水田が広がり、西側は、養老山地から流された砂や土が堆積してできた扇状地となっています。

きれいに舗装された道路

(一色)



## 畑作地域

西側の土地の高い地域は、林や畑が多く、柿、栗、梅等の果樹園、茶園、桑園などに利用されています。

数年前から、タラの芽の栽培も開発され、新しいしごととして広まることが期待されています。

林を利用しての、しいたけ栽培も収入のよいしごととして、力を入れています。その他、らく農、養鶏、養豚等の畜産も行われています。



栗畑

農業協同組合

明治一〇年に群馬県に生糸の協同組合が生まれたのがはじめです。昭和二二年に農業協同組合法ができて、今の農業協同組合に生まれかわったのです。

(三八ページ参照)

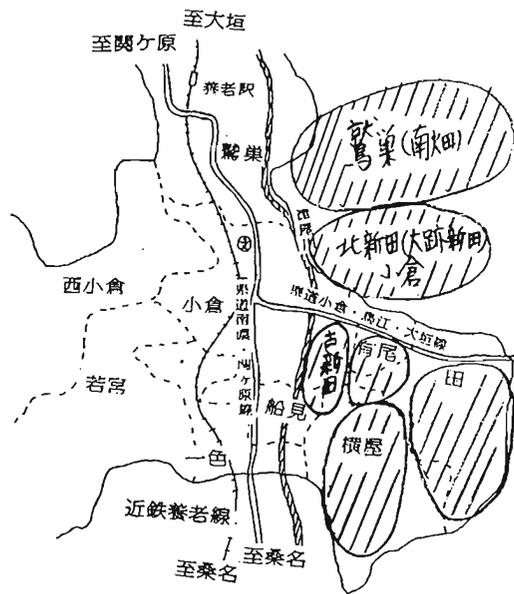
米作地域

津屋川の東は、水田地帯です。

先人の努力や国の援助のおかげで、耕地整理が完成し、道路や用水路・排水路の整備もされ、大型の耕運機やコンバインが使いやすくなりました。

最近は、つとめなどの仕事をしながら米作りをする農家が多くなりました。これらの人たちは、営農組合を組織して田耕しやとり入れを機械操作になれた一部の人々にやらせてもらう人が多くなりました。

有尾地内の元小学校跡にライスセンターが建設され、育苗、もみの乾燥、もみすり、保管、精米などを行ってもらえるようになりま



上多度地区の耕地整理

○昭和三五年

鷲巣、小倉、南部 (古新田)

横屋沖

○昭和四五年〜四九年

田、有尾

## 伊勢湾台風

昭和三十四年九月二六日午後六時、伊勢湾一帯（三重県、愛知県、岐阜県、私たちの養老町も）に大被害をもたらしました。

### 台風

中心気圧八九五〇、最大風速毎秒六〇〜七五メートル、死者四七五九名、行方不明二八二名、家の被害五六七、七一三、船の被害一三七二五隻。

三郷や南部はもちろんのこと、南小倉、北小倉の水田も米は一つぶもとれませんでした。

した。

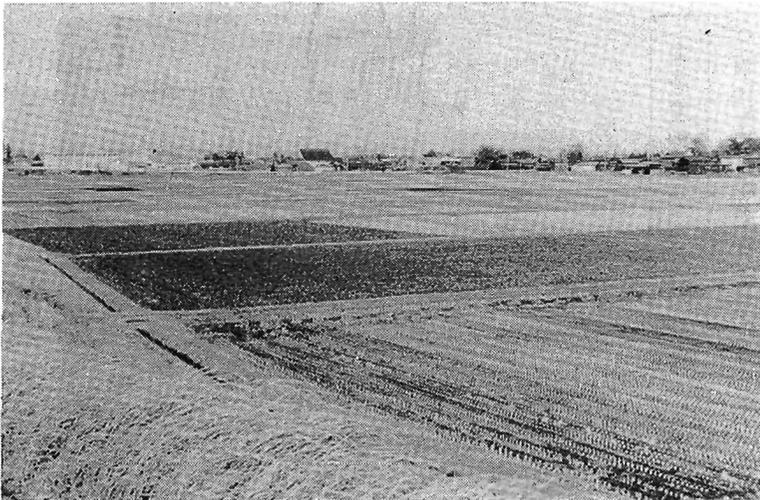
このライスセンターを利用して農家は、上多度だけでなく、周辺の池辺、笠郷、広幡など広い範囲に及んでいます。

ライスセンターができたことにより、農家の人たちの米作りのしごとは、とても楽になりました。（四二ページ参照）

### ① 上多度の米づくり

海拔ゼロメートル地帯

津屋川の堤防東は、海拔零メートルの湿地帯です。昭和三十四年の伊勢湾台風以前には田のあちこちに、大小さまざまな池や堀田が



横屋方面から水田地帯、ライスセンターを望む（昭和六一年）

排水機ができてからの米の収穫

排水機ができるまでは、一反(一〇アール)あたり二〜三俵ぐらいしかとれなかったが、排水機ができてからは稲は水をかぶらず、一反で五〜七俵ぐらいできるようになりました。

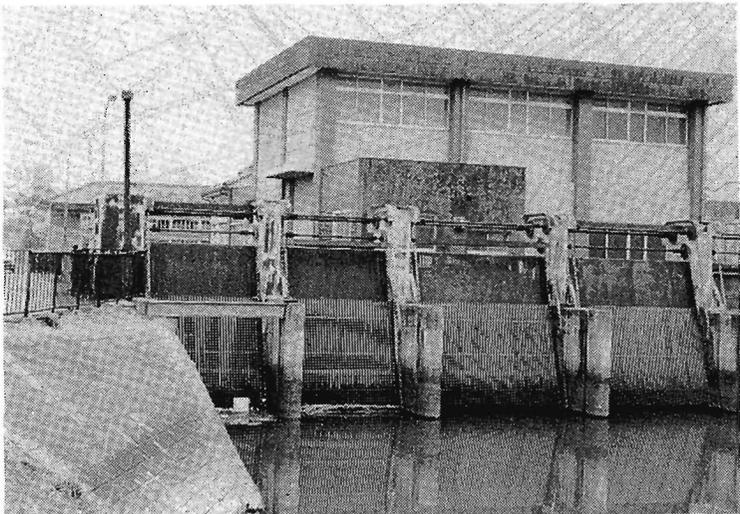
散らばっていました。

そのひとつひとつがつながり、いくつかの堀川となって下池へ流れこんでいました。それほど水が多いのです。

昭和三年ごろ<sup>\*</sup>排水機ができ、駒野新田で津屋川へ排水していましたが、排水機ができる前までは、雨が降るたびに稲は水をかぶり、米の出来はとても悪かったのです。

米がとれず、畑でできるきびやあわ、陸稲などを食べなければなりませんでした。

大正から昭和の初めにかけて、池や堀田が少しずつうめたてられ、さらに排水機ができからは、水に苦しめられることもなく、よい米ができるようになりました。



十三ヶ村排水機

昭和三四年八月の  
水害

三四年八月一三〜  
四日の水害は、上多度  
地区では伊勢湾台風  
(九月)よりも大きな  
災害で、水深も約三〇  
センチ深く、その上一  
ヶ月あまりも家や畑  
が水につかりました。

耕地整理

農業生産力をあげる  
ために耕地所有者が協  
力して区画整理して交  
換分合をして次ページ  
のような田につくりか  
えること。

耕地整理\*

池や堀田に囲まれた田、その池や堀の間を  
やっと荷車の通るほどの道がわずかにあり、  
ほとんどあぜ道でした。田植えのころになる  
と、苗をとって天びん棒でかつぎ田まで運び  
ました。また、とり入れのころになると、も  
みを袋に入れて、堤防の上までかつぎあげな  
ければなりませんでした。遠いところの田は、  
池や堀田を利用し、舟で運ぶ人もありました。  
昭和三四年八月と九月(伊勢湾台風)の二  
回にわたり牧田川の堤防が、約一〇〇メート  
ルにわたって決壊しました。稲はちょうど穂  
が出る時期でしたが、すべて泥水につかりく  
さってしまい、米は一粒もとれませんでした。



耕地整理前の水田(鷺巣)

トロッコ

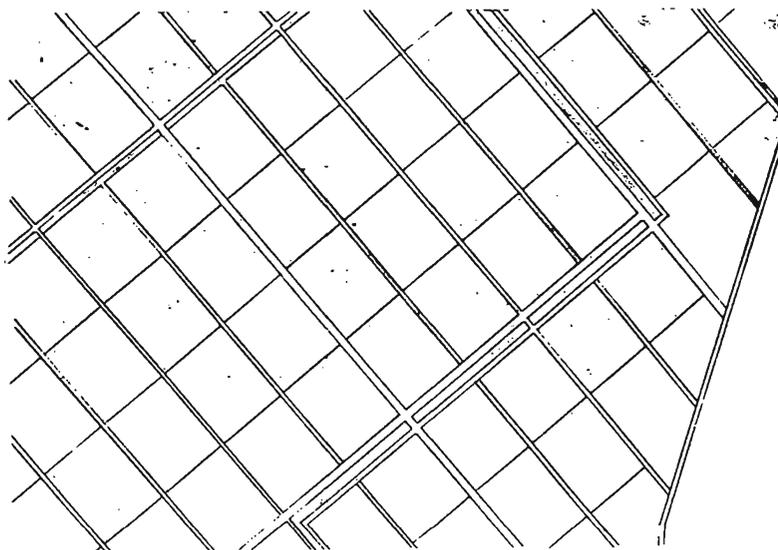
約一、五メートル四角、深さ七〇センチ位の丈夫な木の箱で、車輪が四つついていました。

重い土などを入れて人力でレールの上を押して運んだ土木作業用の道具です。

これを機会に、耕地整理をしようという声が高まり、国からの補助も受けて、その年の冬から工事が始まりました。

当時、上多度地区では、すべてが人の力で行われました。スコップで土を堀り、\*トロッコなどで土を運び、池や堀田をうめる工事は苦勞が多く大変でした。

大小さまざまな形の田が、四角い田に変わり、まがりくねった細い道が、まっすぐと広い道路に変わりました。用水路と排水路が整備され、水に苦しむこともなく、しだいに大きな機械も使われるようになりました。



耕地整理後の水田（鷺巣）

農協上多度支所

昭和二三年五月二五日  
に上多度村農業協同  
組合が小倉に設立され  
ました。

昭和四一年に町内の  
七農協と垂井町農協の  
一部を吸収し養老町農  
協ができました。

五一年に笠郷農協、  
五八年に池辺農協に合  
併しました。

上多度農協の仕事

①指導事業

・農業機械施設の効率  
利用

・生産の育成強化  
・地域農業の振興  
・農業についての指導  
相談

②信用事業

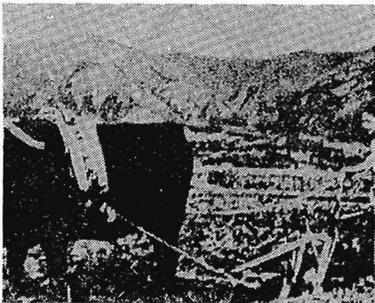
・貯金・年金等  
・貸出金

昔の米づくりのようす

米づくりは、春の田おこしから始まりまし  
た。大きな備中鍬びちゅうくわで、朝早くから暗くなるま  
でおこし続けても、一日にどれだけでもおこ  
すことができませんでした。そのうち、人の  
力ではなく、牛や馬をつかい、鋤すで田おこし  
をする人が、ふえてきました。

田植えのころになると、苗代なほしろで二〇センチ  
ぐらいに育った苗をとり、田へ運んで粹くを使  
って網なまを張り、一株ずつ手で植えました。(昭  
和四五年頃まで)

田植えが終わると、稲の間をおこしたり、  
ごまをまわしたりして、できるだけ草がはえ  
ないようにしました。それでも、草がはえる



牛  
耕

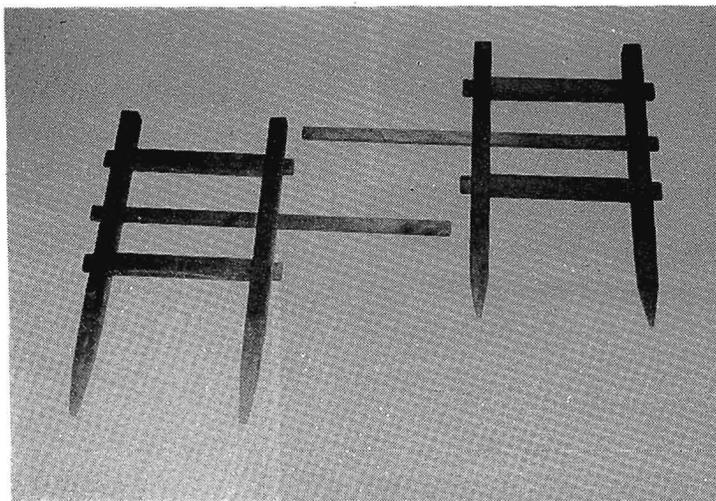


唐  
すき

- ③ 共済事業
  - ・ 生命・火災等の共済
- ④ 購買事業
  - ・ 農機具・飼料・肥料  
など。
- ⑤ 販売事業
  - ・ 米・乳牛・卵・茶・  
しいたけ・柿等
- ⑥ 加工事業
  - ・ 育苗センター  
・ 精米
- ⑦ 利用事業
  - ・ ライスセンター・カ  
ントリーエレベータ  
ー利用

ので、田に、はいつくばるようにして、手  
とりました。暑いさかりの七月に三回くらい  
やらなければなりませんでした。

一月になると、稲かりが始まりました。  
かまで一株一株かり取り、かわかして、それ  
をたばね、「いなごき」といわれる、足でふ  
んで動かす脱穀機で脱穀しました。(昭和二  
〇年前後) 脱穀したもみを、「もみとおし」  
や「とうみ」でおして、袋に入れて運びま  
した。雨が降ると稲がかわかず大変でした。  
一日中脱穀しても、どれだけでもできず、一二  
月ごろまでかかることもありました。そのう  
ちに雪が降り、雪をのけて脱穀することもあ  
りました。

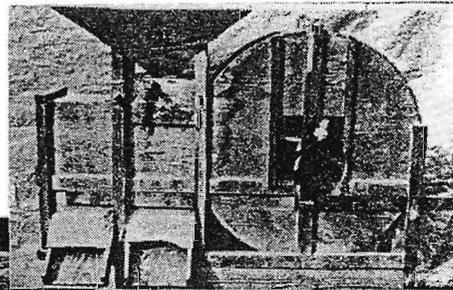


昔、田植えの時綱をはった枠

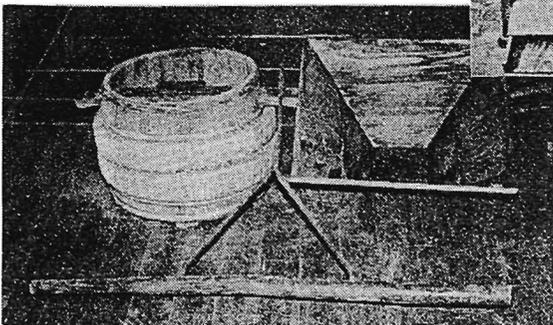
家に持ち帰ったもみは、天気の良い日に、むしろにひろげてほし、乾燥すると、石で作ったうすを回してお米にし、俵につめてしまっておいたり、売ったりしました。

新しい米づくりのようす

耕地整理で道が広くなり、一まいの田の大きさも一定になりました。田で使われる機械も、どんどんふえました。荷車がテラーや軽四輪トラックにかわりました。



唐 箕



白 摺 桶

(のびゆく養老の  
P237より)

上多度地区  
水田耕作面積

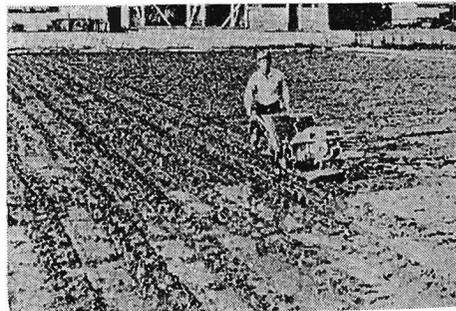
(昭59.)

部 落	鷺 巢	小 倉	三 郷	南 部	合 計
面 積 ha	4 3.7	6 1.7	1 0 6.0	3 6.5	2 4 7.9
割 合 %	1 7.6	2 4.9	4 2.8	1 4.7	1 0 0

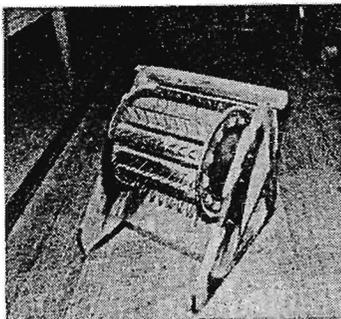
牛や馬につけて使った鋤が耕運機やトラクタにかわりました。足で踏んで動かしていた脱穀機が、エンジンをを使う脱穀機にかわり、さらにコンバインにかわりました。

また、一株一株手で植えていた田植えの仕事も、機械でできるようになりました。

このように、耕地整理後は機械化が進み、少しの労力ではやく仕事ができるようになりました。特に田植え機とコンバインの出現は、稲作の方法を変え、農家の省力化に大いに役立ちました。多くの人手と日数を必要とした田植えや稲かりも、今は、一人か二人の力で土曜日、日曜日を中心にするようになってきた。できるよくなりました。



機 械 植



足踏の脱穀機

(のびゆく養老のP 235  
236より)

ライスセンター

昭和五十一年一〇月、有尾（元、上多度小学校の跡地）に完成。

仕事を能率化したり大型機械を集団で効率的に使用したり、お米の品質をよくする等のねらいでつくられました。

広さ二七〇ヘクタール

育苗能力二〇〇ヘクタール

一〇月一〇日頃から約三〇日位可動し、二万俵程のお米を処理します。

機械化は、さらに大型化し、田の仕事を請け負う営農組合もできてきました。

あるいは、専門技術で苗を作る育苗センターができ、コンバインで脱穀したもみを家へ持ち帰らず、ライスセンターですぐに乾燥し、もみすりまでしてしまうようになりました。



ライスセンター  
(養老町有尾昭和六一年)

米づくりの問題点

題点

今後残されている問

- 機械化にかかる費用
- 排水機にかかる費用
- 小規模農家のあり方

これからの米づくりと問題点\*

耕地整理や機械化、さまざまな技術の改良

により、米の取れ高はどんどん増えました。

しかし、食生活の変化により米を食べる量

が少なくなり、国全体で米が余るようになり

ました。倉庫には、古米や古々米と言われる

まずい米が増えてきました。

そこで、政府は田の一部で米以外の作物(麦

大豆、野菜等)を作るようにすすめ、稲の耕

作面積を減らす減反政策を実施しました。地

区ごとに転作面積の割り当てがあり、各農家

が転作奨励金をもらって、米の生産調整に協

力しました。

耕地整理してできた広い農道



## 柿づくり

柿の木は、樹令が長く、害虫にも強く、山間地に適した樹木です。柿には甘柿と渋柿があり、温暖な地に適した甘柿の栽培が主です。甘柿の品種には富有次郎、西村、御所があります。また、雄花の咲く花粉樹も植えられています。

## ② 柿づくり

\*  
柿づくりにあう土地

上多度は柿づくりがさかんです。

柿畑で、まず目につくのは畑の土です。土砂、砂岩、粘板岩のまじった石畑です。だから、谷川の水はしみこんでしまい、ふだんは水気の少ない畑です。

桑畑が減って、この土地にあった柿が栽培されるようになりました。交通の便がよくなり、遠方への出荷もできるようになり、よく売れる甘柿作りが盛んになりました。



柿の花

一年中続けられる柿の木の世話

柿は一年中、季節に応じて栽培作業が行われます。

まず、落葉しているうちに枝の剪定、整枝、粗皮けずりの手作業、元肥入れをします。よい新芽を出すためです。

春になると、芽がのびはじめ薬剤散布がはじまります。殺虫や消毒の作業です。

蕾ができ開花までは、摘蕾作業が行われます。一枝一果が基準になるよう優秀な蕾を残して手で取り去る大変な仕事です。

五月下旬に花が咲くと人工授粉がはじまります。蜜蜂を導入して受粉のお手伝いをさせます。



手入れの行きとどいた柿畑

六月の晴天日は、殺虫殺菌消毒がくりかえされます。この時期の消毒が生産高に影響するので、特にていねいに何度も行います。

初夏になると摘果作業がはじまります。この頃から害虫の発生が多くなり、殺虫剤散布はかせません。

九月になると、西村早生柿の収穫がはじまります。一〇月には、松本早生柿の収穫、一月は、いよいよ富有柿の収穫出荷の最盛期です。

柿園で、色のよい玉太りの良いものから、採果ばさみで一果ずつ収穫します。

選果は、人の目と手を使って色、形、キズ等を判別し、秀、優、良、格外に仕分けしま



柿の消毒

上多度の柿

栽培面積二五 ha

栽培農家八〇戸

一日の出荷量

約四〇〇ケース

年間一万ケース

出荷先、名古屋市場

す。次は選果機により自動的に重量が計られ  
等級別に分けられ個数も正確に計算され表  
で作成されます。

柿果樹出荷組合（農協）

生産者は協力して組合を作り、生産出荷な  
どの指導運営をしています。柿の販売もま  
めて売る方が高いねだんで売ることができま  
す。

夜中に名古屋の市場へ運ぶ仕事も組合が中  
心になり、効率を上げています。

養老の柿は、糖度が高く優秀で評判が大変  
よいのです。



柿の選果場（養老）

### ③ 養 蚕

養蚕の仕事は手作業が多く、大変な労働だったのです。近頃は省力化も進み、勤めや他の仕事をしながら蚕を飼う農家がほとんどです。

では、どのように飼われているのでしょうか。

#### 昔の養蚕

部屋の床を切って炬を作り、松の太い幹をつめ焼きぬかをすき間に入れて火をつけると、蚕が成虫になるまで温度が保てるようにしてありました。

竹棚を作り「さな」を重ねて多量の蚕を飼



雨がふるような音をたてて桑を食べる「かいこ」

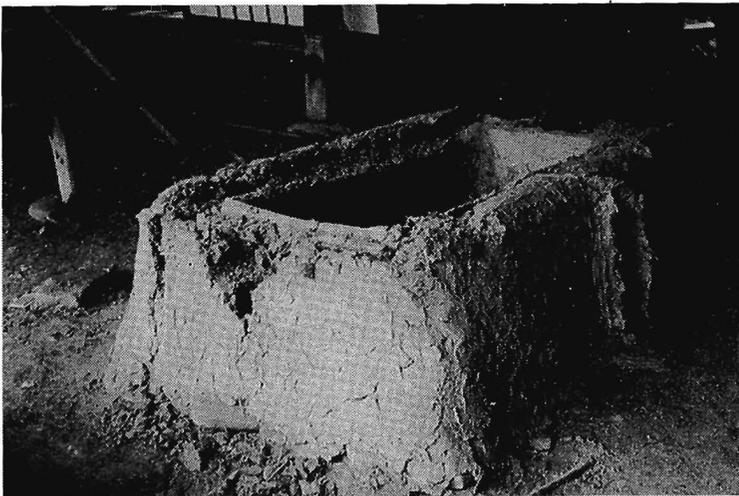
いました。蚕かいこの小さい頃は、桑くわを細こまかく刻きんで与あたえ、二齡にれいのころから丸まるごと与あたえました。

桑くわつみは、一枚まいずつ手てでもぎとり、大おかごにつめ、もち帰かえるのでした。底そこがえをするときは、「さな」の上げ下げが大お変へんな仕事しごとでした。

養よう蚕さん室しつの木きがもえる二に酸さん化か炭たん素そで気き分ぶんが悪わるくなることもありました。

四よ齡れいがすぎ、蚕かいこの頭あたまが光あかりり始めはじめると、まゆを作る前まゆめ兆ちやうです。これを見み分わかけて、「しく」というたなに移うつります。

この様な仕事しごとは、みんな手て作業ぎやうです。温度おんどや天候てんこうを案あじながらの家族かぞぐるみの重おも労働ろうどう作業ぎやうでした。



蚕さん室しつを暖房だんぼうした「地下ちか炉ろ」  
太おい松まつの木きをつめ、もみもみがらがらを入いれ  
てもやした。

けば

「まゆ」を固定して  
いたまわりの糸

駄まゆ

まゆつくりの途中で  
かいが死んでしまっ  
たりして作りかけのや  
わらかいまゆ。

これは、不良品なので  
家庭で真綿づくりに使  
いました。

真綿は、子どもの  
「でんちこ」や「ふと  
ん」作りに大切なもの  
です。

まゆができると、手で一つずつ取り出し、

けばをとり、出荷したのです。<sup>\*</sup>

今の養蚕

一齡の蚕は、温度や湿度調整のできる共同  
飼育所で多量に飼います。

桑の葉の与え方も工夫され、蚕の小さい時  
から枝なり与えます。又一日二回与えるだけ  
で良いという飼育方法も考えられました。

機械や薬品の開発で蚕の病気も少なくなり、  
安心して設備された所で飼うことができます。

二齡がすぎるとそれぞれの農家へ分けて飼  
うのです。枝ごと刈り取って来た桑をそのま  
ま蚕に与えて育てます。今では、手間が省け、

「しく」

この中でかいは、まゆを作る。



とても楽になったそうです。

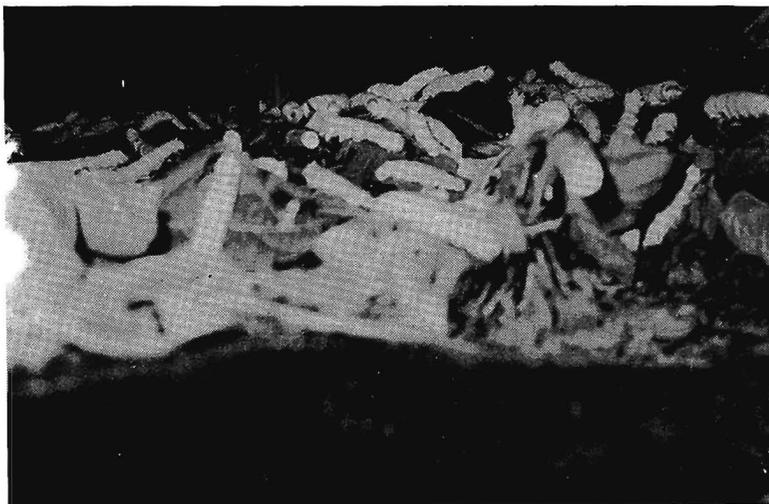
春蚕、夏蚕、秋蚕、晩秋蚕を飼う家では、桑畑の手入れ、肥料やり、草とり作業は、今も昔とかわらない大切な仕事で続けられています。

#### ④ 家畜を飼育する農家

上多度で飼われている家畜

上多度ではいろいろな家畜が飼われています。

特に乳牛やにわとりが多く飼われていますが、その数の変化をみると、乳牛は年々ふえ、昭和三〇年の約四倍以上にもなってい



このごろは、桑は枝ごと切りとって来てかいこにあたえる。

ます。しかし、にわとりは昭和四三年が最高で年々へってきています。

### にわとりを飼う農家

上多度ではあちこちに鶏舎が見られますが、学校の近くにある鶏舎をたずねてみました。

ここでは、お母さんとおばあさんの二人が主に世話をしてみえます。にわたりの数は、約千羽で岡崎から買います。

昔は、ひよこから育てていたのですが、今では手間がかかるので少し大きくなったのを買います。そして、それを育てて大きくし、たまごを生ませるのです。

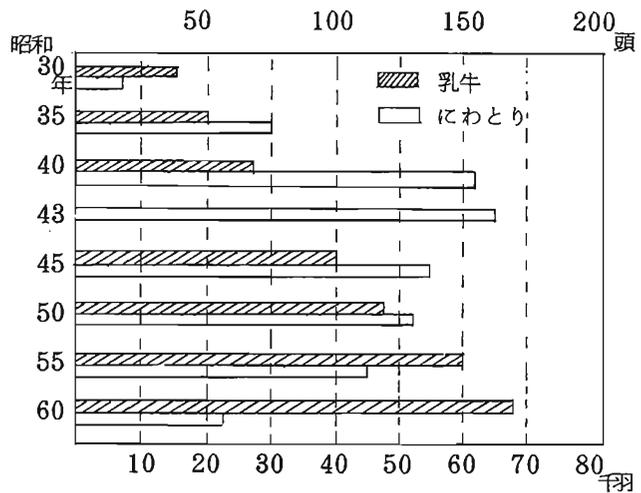
にわとりを飼うには、いろいろな仕事があ

表 1.

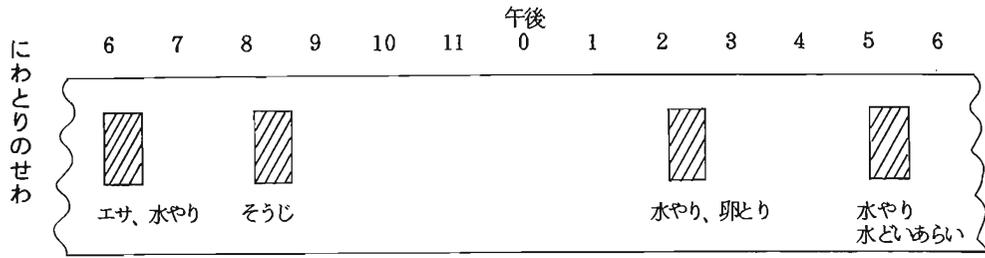
畜 種	数
乳 牛	170 頭
牛(肥育牛)	20 頭
豚	150 頭
にわとり	23000 羽
ブロイラー	7000 羽

上多度で飼われる家畜数  
(昭. 60.)

グラフ 1



乳牛とにわたりの飼育数の移りかわり



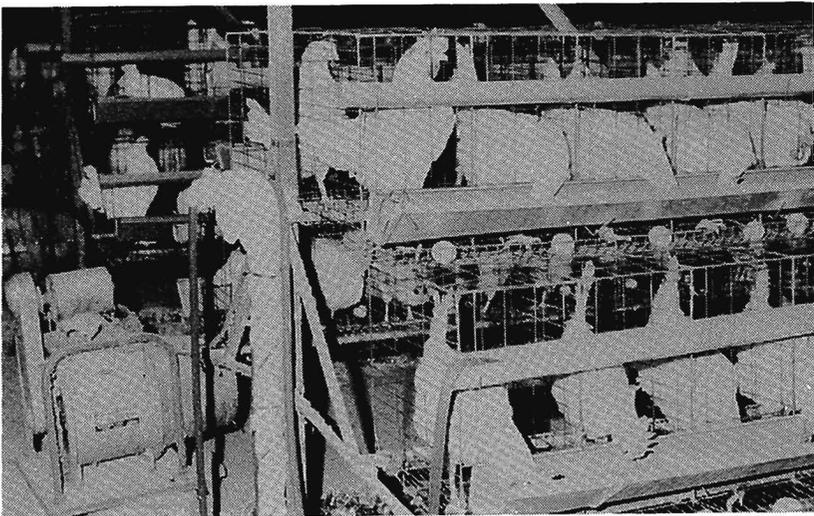
ります。特に水は大切に、毎日欠かさないうにします。また、病気になるないように、予防接種をしたり、水に薬をまぜたりします。たまごは、二日に一度業者が集めにきます。それまでにたまごを集めておきます。

農家の人の話

にわとりは、暑さ寒さに弱いので大変です。暑い時には、ケージファンという扇風機のようなものを回します。

だいたい五月〜十月まで使います。また非常に寒くなると、卵も割れてしまうので中で火をたくこともあります。

卵をたくさん産ませるために、エサ代はとても高くて大変です。



「ケージ」の中で大量に飼育されるにわとり（白色レグホン）

酪農へ

昭和三〇年頃からは農耕用の牛を飼う農家が減少し乳牛を飼う酪農家がふえました。

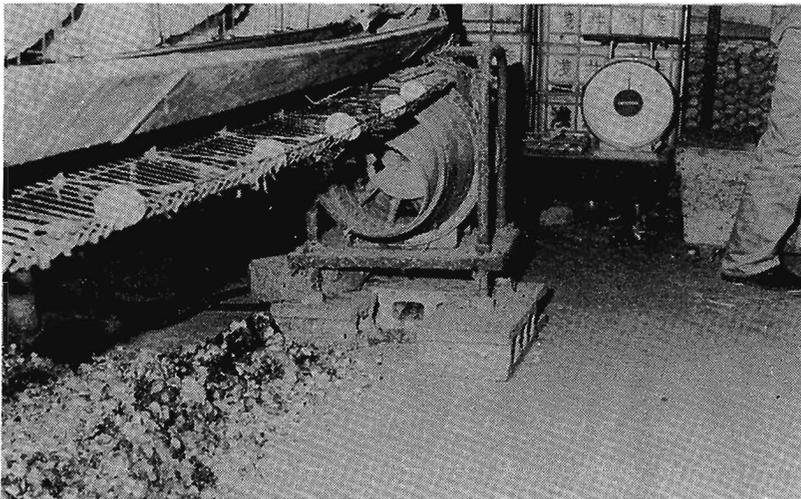
また、フンの始末やハエ、それに野犬やネコの被害にも困っています。

乳牛を飼う農家

上多度で昔から多くの農家が牛を飼っていましたが\*今では少なくなってきました。

その牧場では、約百頭の乳牛を飼っています。兄弟で主に世話をしています。乳牛を飼うためには、いろいろな仕事があります。朝早くから夜おそくまで働きます。

特に乳をしぼる時は、とてもいそがしくなります。牛は生き物なので一日も休むことができません。



「ケージ」の下にたまる「鶏糞」のそうじも大変です

今ではいろいろな機械が入り、便利になってきました。しぼった乳は、パイプラインで一ヶ所に集められます。

フンもベルトコンベヤーで一か所に集められ、すぐにトラックに乗せることができます。うになっていきます。

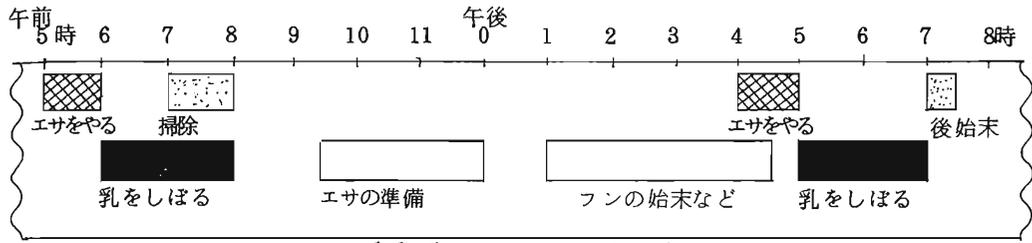
乳牛からしぼった生乳は、直接業者がトラックでとりにきます。

牧場主の話（西小倉）

よい乳をたくさん出させるには、どんなエサを与えたらよいか。また、立派な乳牛を育てるには、どうしたらいいかなど、毎日が勉強です。



一ますごとに仕切られて、たくさん乳牛が飼われている。（西小倉）

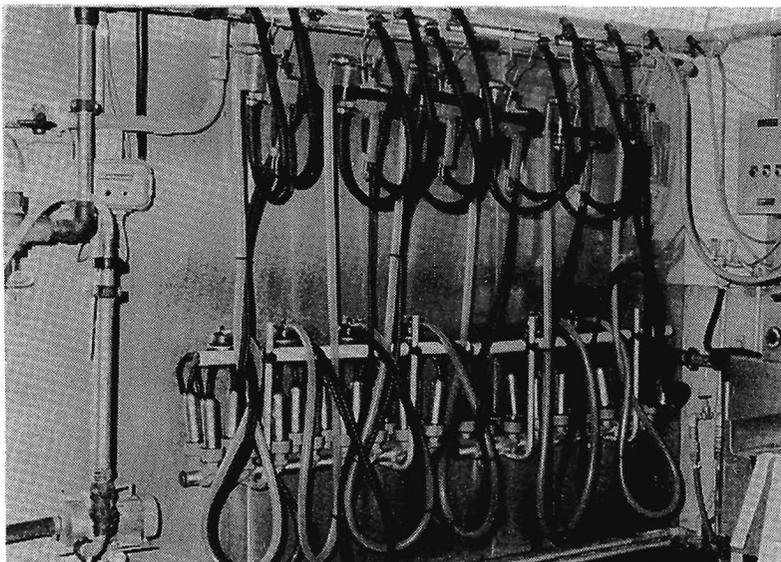


【乳牛の一日の世話】

エサの原料は主にアメリカから輸入し、飼料工場で加工し、さらに配合したものを買っています。

昔は、牛フンを製品にしていたのですが、今では人手がかかるのでやめています。牛フンの始末やエサ代に費用がかかります。大変です。

牛が病気になるように、予防接種もします。また、病気になった牛を見つけるのに気をつかいます。



乳牛から乳をしぼる  
搾乳機

燃料としての木材

昭和二七年頃までは燃料として「くぬぎ」などの木材を割木とか木炭に加工しました。この燃料の利用度も高く、割木つくりや木炭つくりを職業にしている人もありました。それを偲ぶ「炭焼きがま」が若宮の東海自然歩道の横に残っています。

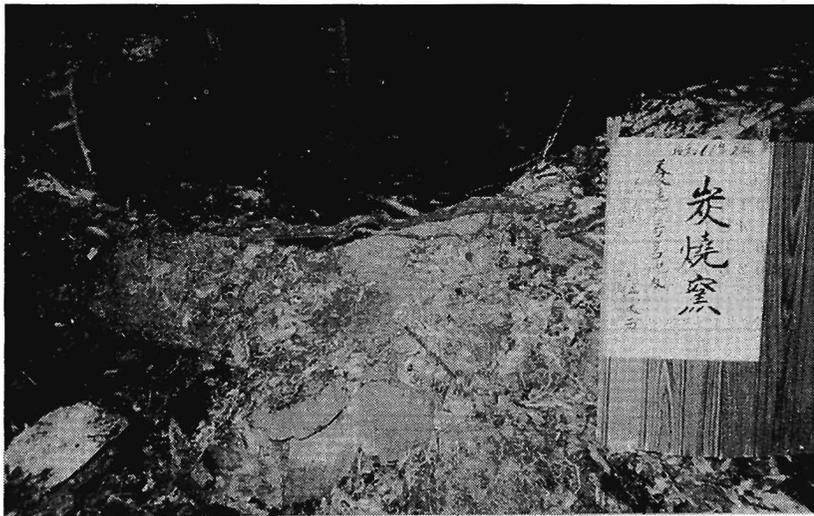
⑤ 山の仕事（一四ページ参照）\*

上度は、自然に恵まれた土地で、木材も豊富にあります。杉や桧などの木々が用材として利用され、とるだけでなく毎年一二〇〇本位の植樹もされています。

赤岩神社への参道わきに、長さが一メートルほどの井げたに組んだ木がたくさんあります。これは、しいたけを栽培しているのです。

しいたけ栽培\*

しいたけを栽培するには、次の表のようにいろいろな仕事があります。



「炭」を焼いた釜（古くなって天井も落ちています）

しいたけ栽培の苦勞

しいたけ栽培は、自然にまかせる部分が多いので毎月天気がとも気になります。

乾そうすると、しいたけ菌が死んでしまうので、散水機などで水をまきます。

また、冬にはポイラーであたたかくしてやりませう。

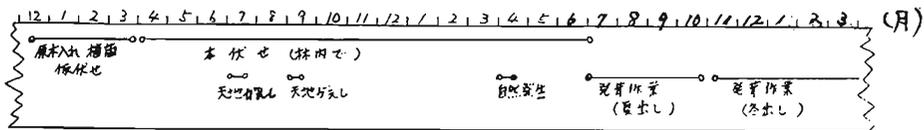
自然が相手の仕事なので、収量など不安定なため後継者がなかなか出てこないことです。

しいたけの菌をうつ原木は、昔は近くの木を使っていたのですが、今では、飛騨や福島県から買っています。

毎日原木の様子を見ながら発生しそうな原木を浸水しハウス内に立てます。

とれたしいたけは、品質別に一〇〇グラムのパックづめにします。それを五〇個入りの箱につめるのですが、これは、上多度しいたけ組合の組合員で行います。

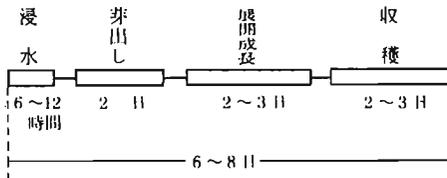
箱は、大垣にあるセンターに集められ京都大阪方面へ出荷されています。



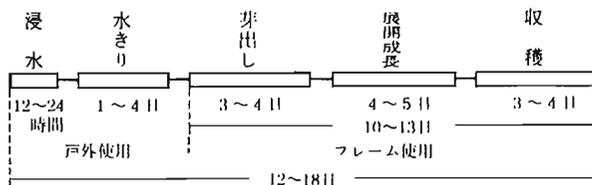
しいたけ栽培のつみ

発茸作業

夏出し  
 { 岐阜101号  
 岐阜改一4号  
 岐阜201号  
 " 202号 }



冬出し  
 { 全品種栽培可能 }



上多度の工場などで作られる主な商品

- 建築用材木
- ダンボール
- 自動車部品
- 建築用鉄骨
- 部品作成用金型
- 線
- アルミ換気口
- 窓用格子
- 下水管
- マンホールふた
- 床部の止め金
- とうふ
- ひょうたん
- きびようかん
- 養老豆

(四) ものをつくる仕事

わたしたちの住んでいる上多度地区には、規模は小さいがいろいろな工場があります。

そこでは、食料品から機械の部品まで、生活に必要ないろいろなものを作っています。

工場の種類についてみると、木材、木製品関係の工場が多く見られます。

また、観光地養老の滝が近くにあり、土産の品物作りの工場もみられます。

工場の働く人の数についてみると、従業者別事業所数の表からもわかるように、働いている人が一〜四人の工場がほとんどで、全体の約七割をしめています。小規模の工場では、

従業者別事業所数

従業者数	事業所数
1～4人	39
5～9人	7
10～19人	3
20～29人	2
30～49人	1
50人以上	1
合計	53

(注)建設業などを除く

業種別事業所数

(注)建設業などを除く

業種	事業所数
鉄鋼・金属	15
機械	1
電気	1
化学	1
出版・印刷	1
紙製品	1
繊維・縫製	9
木材・木製品	18
その他(食料品・土産品など)	6
合計	53

(昭. 60. 1.)

上 多 度 の 企 業	大倉建設	鷺巣	大工	東新設備	鷺巣	水道工事
	川地室内装飾	鷺巣	室内装飾	所設備工業	西小倉	管工事業
	木村配管工業所	小倉	水道工事	野村組	鷺巣	土木建築
	小寺設備	西小倉	水道工事	藤田組	鷺巣	とび職
	田中建工	鷺巣	建築	藤田建築	鷺巣	建築
	田中設備	鷺巣	水道工事	森田建設	西小倉	大工

家族を中心に少人数で生産活動を行なっています。

### (五) 店の人たちの仕事

買い物調べ

二年生の子が、家での買い物調べを一週間しました。

一番よく利用されるのは、高田にあるスーパーのようです。どうして近くの店に行かずに、わざわざ車や電車で遠くまで行くのか、お母さんに聞いてみました。  
お母さんは、  
「スーパーは何でもそろろし、少し安いから

業種別従業者別事業所数

(注)建設業などを除く

業種	従業者数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50人以上	合計
鉄鋼・金属	11	1	1	2				15
機械		1						1
電気	1							1
化学						1		1
出版・印刷	1							1
紙製品						1		1
繊維・縫製	6	1	2					9
木材・木製品	14	4						18
その他(食料品・土産品など)	6							6
合計	39	7	3	2	1	1		53

上 多 度 の 企 業	安田建設	鷺巣建築	養老巻糸	小倉	撚糸
	木村縫製	鷺巣縫製	水谷鑄造所	小倉	鑄造業
	正和工業	鷺巣化学製品	養老産業	鷺巣	製綿業
	田中工作所	鷺巣プレス加工	養老製作所	鷺巣	金型加工
	問山木工	一色加工糸糸巻	第一物産	鷺巣	観光食品
	西谷縫製	船見縫製業	瓢光堂	鷺巣	土産用瓢筆

よ。」

と言われました。

しかし、上多度にある食料品店も夕方になると、お客さんでいっぱいになります。お客さんの一人が、

「ほしい時にすぐ買いに来れるし、店のおじさん、おばさんとも親しくできるから、こういう店はいいね。」

と言ってみえました。

店のおじさんたちは、少しでもお客さんが便利のように、品数を増やしたり、すぐ食べられるようなおかずを作って売ったりしてみえます。



校下のお店で買物をする  
おかあさんたち

みやげ物	9	食料品・酒類	10
雑貨	3	文房具	2
衣服・くつ	3	カーテン	2
自転車・自動車	4	電気器具	1
仏壇	1	プロパン	1
不動産	1	喫茶店	4
食堂	6	理美容院	4

上多度にある店

(昭. 60.年調)

### 上多度にある店

それでは、上多度にはどんな店があるのでしょう。

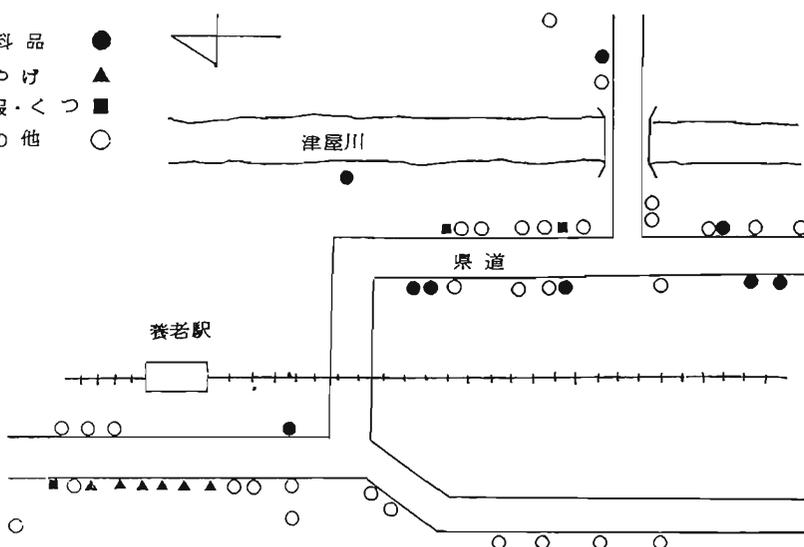
しかし、食料品店でも、日用雑貨や文房具が並べられている店がほとんどです。

地図の上でこれらの店を見つみると、ほとんどの店が県道沿いに並んでいることに気がつきます。

また、西小倉のバイパス沿いには、喫茶店や食堂が目立ちます。これは、バイパス南側関ヶ原線の工事が進んだことや、西小倉の人口が増えたことによります。

### 駅前のお店

食料品 ●  
みやげ物 ▲  
衣服・くつ ■  
その他 ○



養老駅周辺の店の位置

養老駅の前には、一〇軒余りのみやげ物店が並び、休日などは、観光客でにぎわっています。

近くに、養老の滝を始めとして、名所や公園などがたくさんあるからです。

おじいさん、おばあさんの子どもころはさみしいところだったそうですが、大正九年に近鉄養老線が開通してから、すっかり変わりにぎやかになったそうです。

## (六) つとめに出る人々

家族の仕事調べ

上多度の人々で、つとめに出ている人々は、



養老駅前の店

養老公園口郵便局

明治一七年（一八八四）、養老町白石一番地に養老公園郵便受取所として開設されました。

昭三二年養老公園口郵便局とあらためられ、今日まで続いています。ここで扱っている主な仕事は、

- ・「郵便」
  - ・「郵便貯金」
  - ・「かんい保険郵便年金」
- の三つです。

どんな仕事についているのでしょうか。

そこで、上多度小学校にかよう友達の家族の仕事調べをしました。

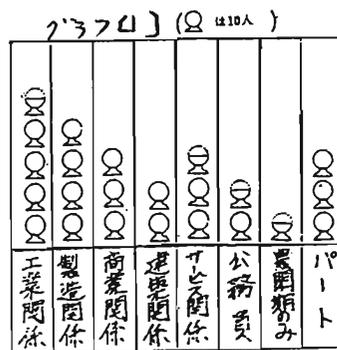
〔I〕のグラフから、つとめに出る人々の仕事の種類のうちでは、鉄工、自動車などの工業関係の仕事についている人が、もっとも多いことがわかります。

ついで、ほう製や食品などの製ぞう関係、セールスやえい業などの商業関係の仕事が多いようです。

また、学校の先生や役所につとめる公務員や郵便局につとめる人たちもいます。

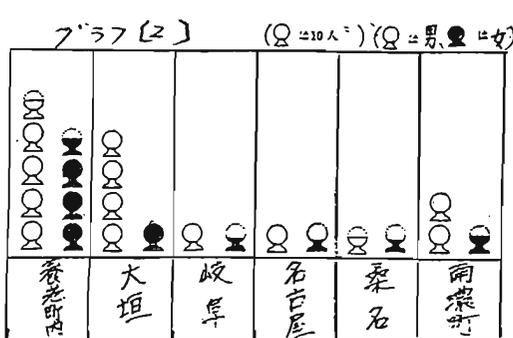
それでは、つとめに出ている人々のうち、男の人と女の人とは、仕事の種類に違いが

〔I〕



家族の仕事調べ (昭和59年全児童210戸)

〔II〕



勤め先の市町村調べ (昭和59年全児童210戸)

専業農家

農業だけで生活をしている農家

兼業農家

家族のだれかが農業以外の職業について生  
活している農家

第一種兼業農家は農  
業を主とし、第二種兼  
業農家は、他の職業を  
主とした農家である。

あるのでしょうか。

男の人の仕事の種類では、工業関係の仕事

についている人々がもっとも多く、ついで、

商業関係、製どう関係となっています。

また、農業がひまな農かん期の時だけつと

めに出るといふ人もいます。

女の人の仕事の種類では、製造関係がもつ

とも多いことがわかります。

また、一日中つとめるのでなく、近くの会

社や工場へパートに出ている人が、たいへん

多いということも、〔Ⅱ〕のグラフからわかりま

す。

女の人の中には、つとめに出ないで、家で

内職ないしきをやっている人も多いようです。

上多度地区農家・非農家数

(昭六一、三、一調)

	兼業農家	専業農家	非農家	比率、農家：非農家
鷺 巢	76	1	78	49：51
駅 前	7		107	6：94
北小倉	80		32	71：29
南小倉	38		26	59：41
西小倉	23	3	46	36：64
有 尾	27		0	100：0
田	43	1	7	86：14
横 屋	35		0	100：0
若 宮	22		1	96：4
船 見	11		10	52：48
一 色	47		51	48：52
計	409	5	358	54：46

乗り物の利用

つとめに出る人は、どんな乗物を使って、どんな市や町にかよっているのでしょうか。

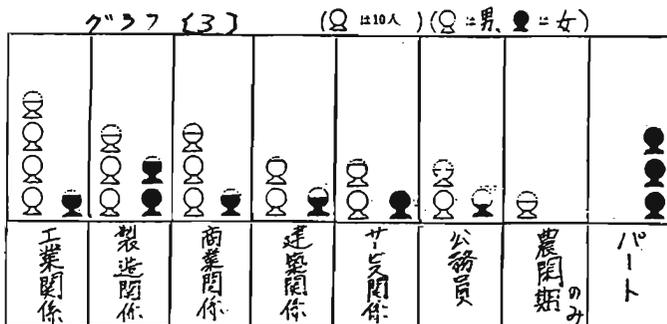
男の人は、自家用車で大垣や岐阜、養老町内の会社や工場にかよっている人が多いことが、〔III〕と〔IV〕のグラフからわかります。

また、電車を使って、名古屋などの遠い所までかよっている人もいます。

それに比べて、女の人は、自家用車でかよっている人がもつとも多いことは同じですが、つとめ先が、養老町内がほとんどで、近い所へかよっている人が多いことが、男の人と違うようです。

このように、自家用車に乗る人が多くなっ

〔III〕



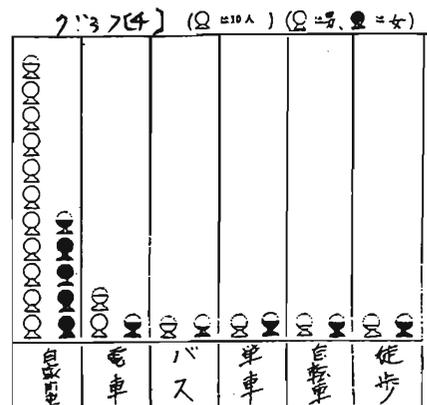
男女別（家族）の仕事調べ  
（昭59. 全児童 210戸）

養老駅乗降客数の移りかわり（1日平均）

年 度	35	45	50	55	56	57	58	59	60
人 数	2292	1917	1483	1418	1635	957	1872	951	1233

て養老町内だけでなく、大垣、岐阜、桑名な  
 ど少し遠い所まで通う人が多くなりました。  
 そのため、品物だけでなく、つとめに出る  
 人々によっても結びつきの強い地域の範囲が  
 広められてきたということがいえるでしょう。

〔Ⅳ〕



勤めに出ている人々の乗り物調べ  
 (昭59 全児童210戸)

## (七) 上多度の人たちの

くらしを支える

### ① 上多度出張所

昭和三十年四月、上多度村が合併がっぺいによって  
養老町になり、養老町役場の出張所として生  
れました。

この出張所しゅつちやうじょは、上多度地区の人々の生活を  
守り、豊かにくらししていけるよう、税ぜいを集め  
たり、いろいろな証明書しやうめいしよを発行はつこうしたり、地元  
の産業発展さんぎやんはつてんのために色々と仕事をしています。  
ほかにどんな仕事があるのか調べてみましょ  
う。

### 上多度出張所（役場）について

#### 一、歴史

昭和八年一月津屋新田、有尾新田を田村と改称  
明治二二年七月一日小倉村、大跡新田、有尾村、  
鷺巣村を上多度村と改称

有尾村・田村・横屋村と三郷村と改称

明治二二年九月上多度村外一ヶ村組合

役場を大字小倉に置く

昭和三九年新築（農協と同じ建物の中）

#### 二、目的

地域住民の福祉向上と地域社会の健全な発展を  
図りつつ正義と秩序とを基調とし基本的人権を  
守り地域行政の円滑な運営を目的とする。

#### 三、主な仕事

税金等の徴集、戸籍に関する事務

統計等の集計、産業振興の仕事

## 上多度公民館

昭和二九年地域ぐるみで公民館建設の旗をあげ一〇年後に住民の努力が実って完成しました。

公民館を中心に各地区の集会所で生活改善グループ活動が盛んに進められ、目ざましい成果をあげました。

昭和三五年、四〇年の二回にわたり大蔵大臣賞受賞、昭和三八年には、内閣総理大臣賞を受賞して日本一の栄誉に輝きました。

## ②\* 上多度公民館

戦後、新しい家庭と住みよい村づくりを目標として社会教育が活発になりました。

青年団や婦人会などの団体が一ヶ所に集まって学習することが必要になって、公民館の建設へと発展しました。

上多度公民館は、昭和三九年一月に養老町で独立公民館としては一番早く完成しました。生活学校や家庭教育学級、成人大学、高齢者大学、姑学級、趣味講座など次々と開設され地域ぐるみ新生活運動に取り組んでいます。



地域の人に親しまれている  
上多度公民館

S.60	S.59	S.58			上多度地区で過去に起った犯罪件数
12件	11件	11件			
1件	7件	3件	人身物損	交通事故	
26件	41件	21件			

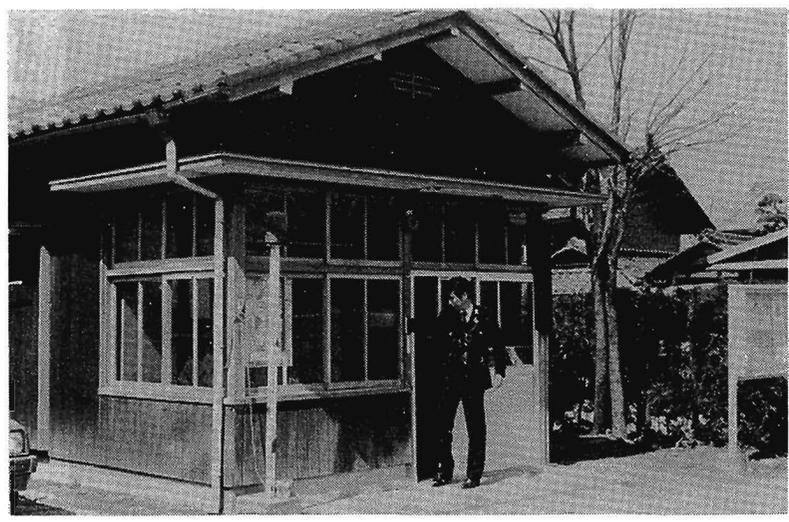
### ③ 上多度駐在所

学校の東側にある駐在所には、おまわりさんが家族で勤務しています。

ふだんは、道に迷った人に教えたり、上多度地区に誰がどこに住んでいるかを正確に調べたり、「上多度だより」という小さな新聞を発行して、防犯や火災予防のPRをしています。

また、養老の本署へ行って、交通の取締りや少年補導の仕事もします。

こうして、上多度地区のためばかりでなく養老町全体の人々が明るく楽しい毎日が過ごせるようがんばっています。



上多度駐在所

#### センターの概要

粗大ごみ処理のため二億四千万円を投じて再生利用も兼ねた近代的で優秀な破砕機を設置し、地域住民の処理困難な粗大廃棄物を円滑に処理しています。

#### 可燃物

紙や布のくずなど燃えるごみ。

#### 不燃物

鉄くずや空カンなど燃えないごみ。  
粗大ごみ  
テレビやたんすなど大きなごみ。

#### ④ 西南濃粗大廃棄物処理センター

大垣市、海津町、平田町、南濃町、養老町、

上石津町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之

内町、安八町、墨俣町の十二市町村の可燃物

不燃物・粗大ごみを処理しています。

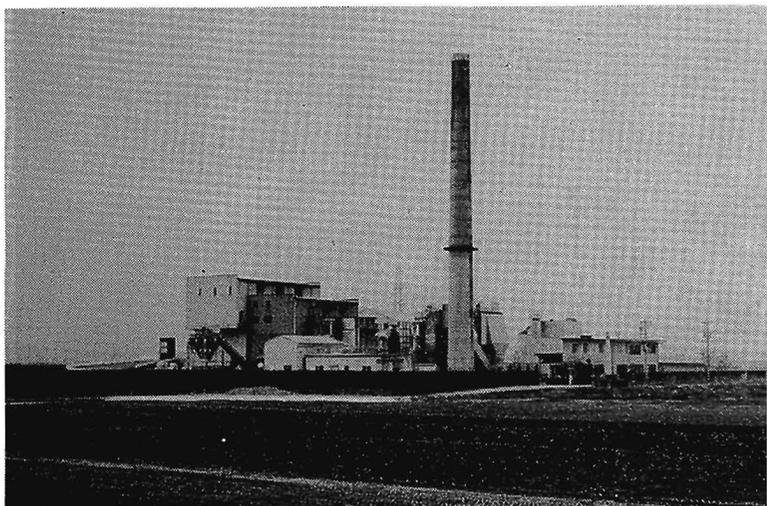
昭和四十七年に建てられました。公害の

心配があるので高いえんとつや、電気集じん

器で煙が出ないよう工夫されています。

▲所長さんからのお願い

- ・ごみの中へ爆発物を入れぬよう。
- ・不燃物・可燃物を分けてほしい。



下池をうめたて、そこに作られた粗大ゴミ処理センター（有尾下池）

第四分団（上多度）

- 第一部 鷺巣
- 第二部 小倉
- 第三部 三郷
- 第四部 南部
- ・団員 五八名
- ・消防車 一台
- ・小型動力ポンプ 三台

婦人消防隊

- ・鷺巣 一二〇名
- ・田 五〇名
- ・火災発生状況（上多度）

	件数
昭和57年	4
58	2
59	3
60	3

⑤ 消防団

上多度の消防団は、養老町の第四分団\*です。

消防団員は、消防署と連携\*をしながら、消

火活動や火災の予防活動をしています。

消防は、一、二分をあらゆる迅速\*な行動が

必要です。そのため、団員は仕事が終わって

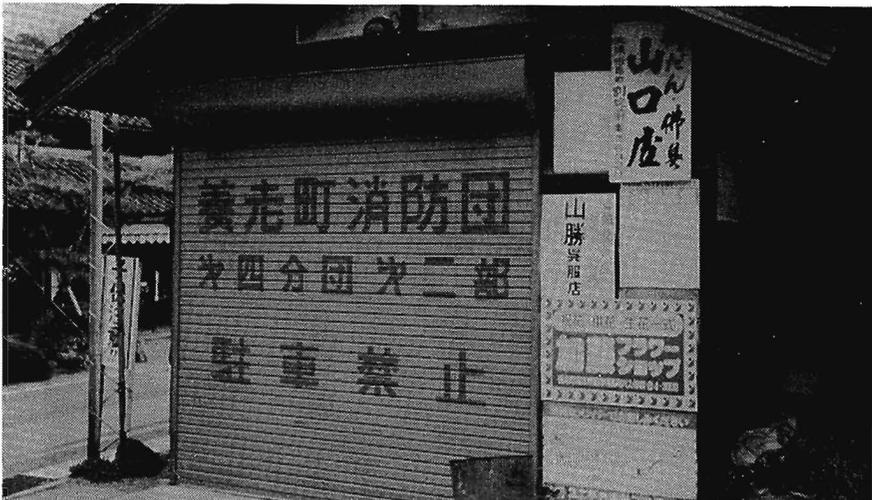
から夜、学校の運動場で訓練をしています。

それに水防団の仕事もしています。

また、上多度にも鷺巣と田\*に婦人消防隊\*が

できました。まず自分の家から火災を出さな

いねらいで訓練\*をしています。



上多度消防団

### 三、上多度のうつりかわり

#### (一) 大昔の上多度

原始時代

養老町では先土器時代、縄文時代、弥生時代など古い時代の出土品は、非常に少ないのです。

人が住んでいた所は、養老山のふもとの扇状地で別府山のふもとなど、毎日狩りをするのに便利な土地でした。

しかし、となりの上石津町や、南濃町、不破郡、大垣市、揖斐郡などからは、たくさん

仁徳天皇陵

大阪府堺市にあります。墓としての広さは、世界一でエジプトのピラミットと並んで有名です。



国造

古代の地方官吏  
大和朝廷によって征  
服された地方の豪族が  
任命されました。

出土しています。

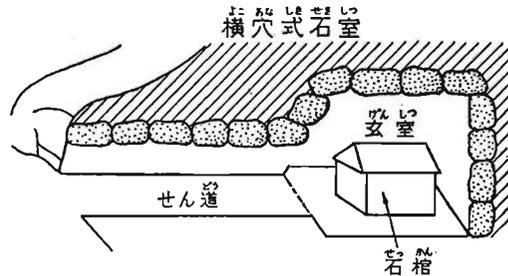
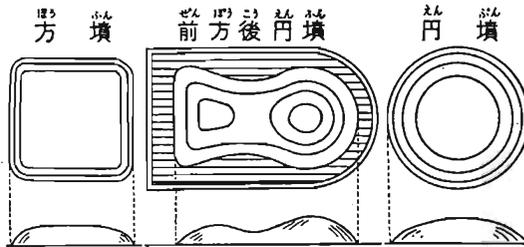
養老山の扇状地からは、縄文式土器、弥生式土器や石器が少し出土しています。

となりの海津郡南濃町には、庭田貝塚という大昔の人たちが食べた貝がらや魚の骨などを捨てたあとも、みつかっています。

山麓に広がる古墳

古墳は、三世紀から七世紀にかけて築かれましたが、はじめは国造などの豪族たちが土を高く盛りあげた大きな墓を作って勢力をほこったものです。

養老町では、小さい古墳が多い上に、長い間にくずれてしまつて古墳であることが分か



いろいろな古墳

らなくなっているものもあります。

中にいっしょに葬られていた土器、剣玉なども盗まれたり失ったり、こわれてしまっほとんど保存されていません。

上多度地区には、次の古墳がわかっていいます。

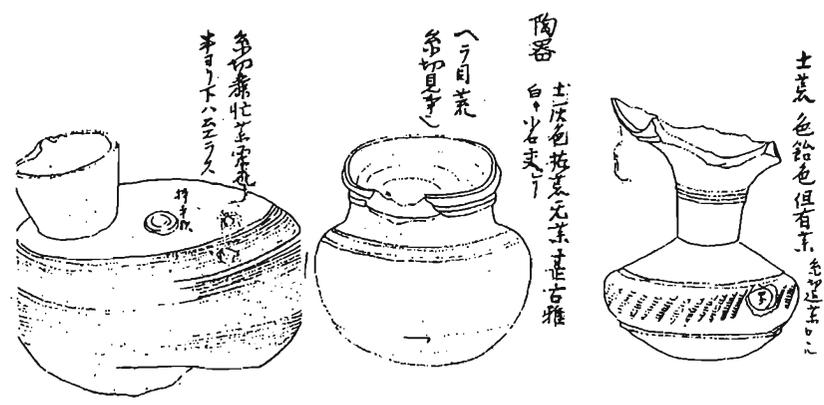
小倉古墳

円墳で、もと赤岩神社を祭っていました。

直径一八メートル、高さ六メートルで今も完全に残っています。

若宮古墳

一八一〇年（文化七年）に松林を開墾していたら、大きな石で囲んだ穴を掘りあて、その中から、玉や須恵器などがたくさんでてき



若宮古墳から出土した土器の一部  
（多芸郡若宮新田石窟古希物図）

薬師堂と  
ギリギリ坂

信長に焼き払われた時、一祐という僧が本尊薬師如来像を運び出し、車に乗せて避難しました。小倉と鷺巣との分れ道で、小倉の方へ向くとギリギリときしんで動きません。鷺巣の方へ行こうとすると軽く動くので、仏様が鷺巣へ行きたいのだと思い、鷺巣へ行きました。

その場所を今でも、「ギリギリ」といいます。

ました。今その場所は、大垣共立銀行研修所の敷地になっています。

小倉山光明寺

奈良時代には、養老山のふもとに別所寺、竜泉寺、光堂寺、柏尾寺、養老寺、光明寺、藤内寺の七つのりっぱなお寺がたてられ、多芸七坊と呼ばれていました。

小倉の光明寺は、小倉の薬師山にありましたが、後に織田信長に焼きはらわれたといわれます。

今、鷺巣の白山神社のかたわらに小さなお堂が残っているだけで薬師堂といっています。付近には、石仏が数体祭られ、その一つは、大木にまきこまれており、「のぞき仏」とい



鷺巣にある「薬師堂」

光堂寺

勢至山光堂寺がなく  
なつて勢至山専明寺と  
なり鷺巣村に移つたの  
です。

われていきます。

源義朝と源氏橋

平安時代の中頃になると、武士が次第に勢力を強めてきて、源氏と平氏の時代になってきました。

鎌倉に幕府をひらいた源頼朝の父義朝は、京都での戦い（平治の乱）に破れて東国へ落ちる時、大垣の青墓へ逃げこみました。

さらに東国へむかうため、鷺巣村に住んでいて、武勇にすぐれた鷺巣玄光という人に守られて柴舟に身をかくして出発しました。

舟に乗りこんだところが現在の源氏橋として残っており、橋のたもとは、くわしい説



源氏橋

明板が立っています。

## (二) 江戸時代以後の上多度

### ① 新田開発

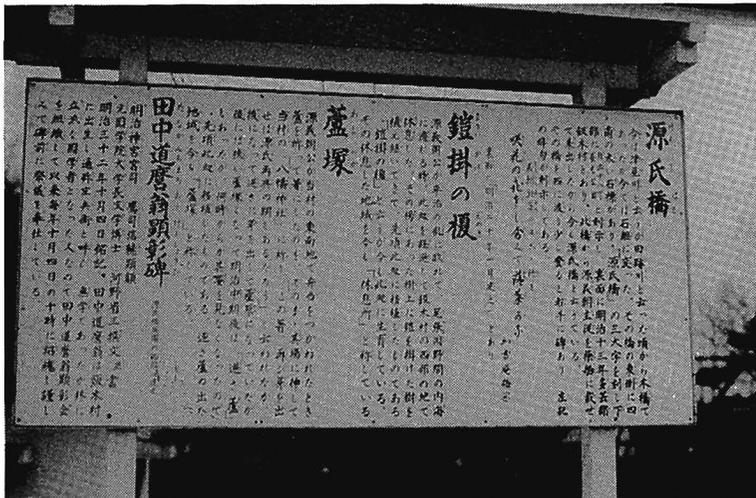
江戸時代に入ると荒地を開墾して新しい田を作ることが盛んになり、寛永の末（一六四〇年）頃から延宝（一六七二年）頃にかけてのおよそ三〇年間にたくさんの新田が開発されました。

上多度地区でも今の三郷を中心として低地に土を入れ、新しい田畑が作られました。

有尾新田

源氏橋等の説明のかかれた案内板

(明徳)



## 津屋新田

津屋新田の開発の年は、はっきりしませんが、この新田には幕領と高須領がありました。承応三年（一六五四年）に幕領が津屋村から分かれて横屋村となり、高須領は津屋新田や横屋新田といわれるようになりました。

一六四四年に開墾の願いをだし、一六四六年に許しができました。新しく堤防を二キロメートルも作る難工事でしたが、七年間は年貢を納めなくてもよいという条件でした。

### \* 津屋新田（横屋新田のこと）

一六五四年に津屋から分かれて横屋村となり、現在の横屋部落になりました。

### 鷺巣北畑新田、南畑新田

一六七三〜一六八一年に開発されましたが、くわしいことは分かりません。

### 大跡新田



鷺巣北畑南畑新田

## 下池の干拓

岐阜県下最大で七ヶ村に取り囲まれた池でした。

南北約二・一キロ

東西約二・二キロ

周囲約四キロ

佐久間山治、平松不殺らが、大正二年ごろ駒野の東の川原から砂を舟で運び埋めたてました。

大正五年ころ堤防を築いて約一六町歩干拓しました。大正八年ごろには一九町歩の干拓完成。大正一四年二七町歩、昭和一〇年までに二〇〇町歩の干拓を完成しました。

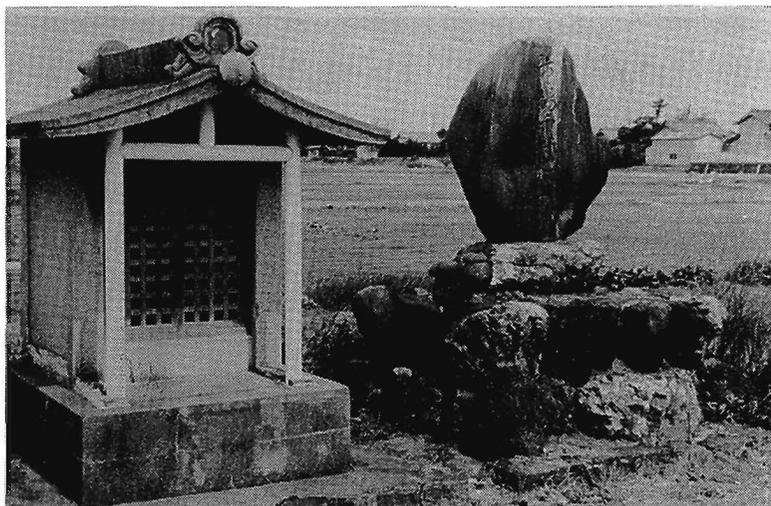
鶯巣と同時に耕地整理が行われたが、低地であるため、苗田としては利用されなかった。この大跡付近には、「市場千軒」といって市場も毎月ひらかれていました。

### \* 下池の干拓

養老町の最南端にあり、岐阜県下最大の池で、まわり四キロメートルもありました。大正二年から昭和一〇年にかけてすべてうめたてられました。

## ② 年貢の決め方

石高の祖税の割合（免という）をかけると、



市場千軒記念碑（大跡新田）

検見法

毎年代官所の役人と村の役人が米のできぐあいを調べ、年貢を決める方法

定免法

検見法のように毎年検査をするのがめんどうだから過去五、六年の取れ高の平均をとって年貢を決めました。豊作でも不作でも一定の年貢を納める方法

納めなければならない年貢がどれだけがわかります。

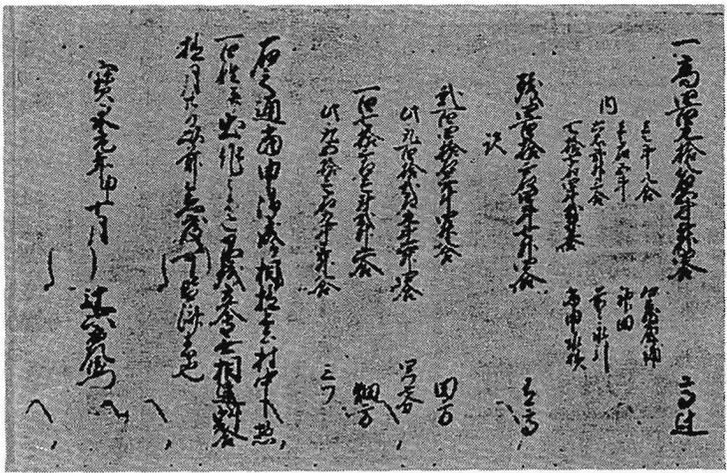
免は村によって違いますが、平均すると幕府領では、六公四民といって六〇%が年貢、四〇%が最低のものでした。

その後五公五民になったり、四公六民になったりしました。

免の決め方には、検見法と定免法があります。

しかし、日照りや水入りなどで収穫が非常に少ない年は、破免といって検見した上で年貢を減らしてもらえることもありました。しかし破免は、領主の収入が減るのでなかなか許されませんでした。

領主から各村々へその年に納めなければならない年貢を決めて出した命令書



年 貢

農民が領主におさめた税。

江戸時代には、収穫高によって、米でおさめたが、その割合は、収穫高の五〇パーセントで「五公五民」といいました。

明治になってからはお金でおさめるようになりしました。

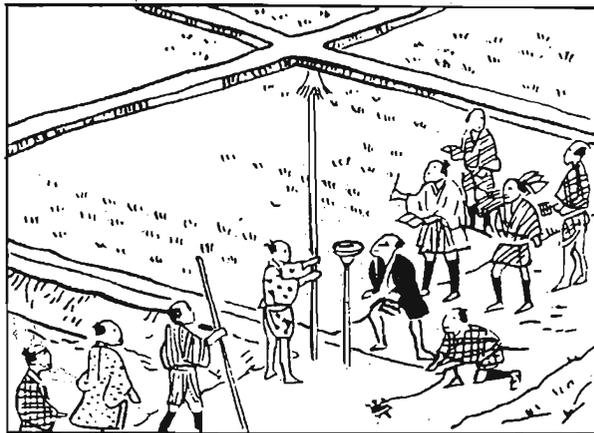
年 貢\*

農民は総人口の約八五％で、その農民の納める年貢で武士の生活を支えていました。

また、土木工事などの費用も負担しました。

士農工商とあって、農民は武士に次ぐ身分とされましたが、農民は重い年貢をかけられて苦しい生活をしていました。

年貢のもとになる検地は、一一〇九年（慶長一四年）から数度にわたって行われ、その検地帳の一部は現在も残っています。



検地をして年貢を決める

上多度村の変遷

明治二二年小倉村、鷺巣村、大跡新田が合併して上多度村になり有尾村、田村、横屋村が合併して三郷村になりました。

明治三〇年、両村が合併して上多度村になりました。

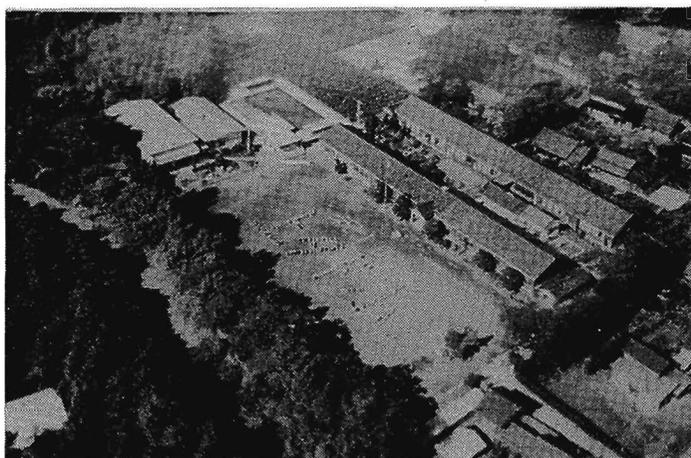
昭和二九年一月養老町に合併、昭和三〇年には、若宮、一色、船見も養老町へ合併して、現在の上多度地区になりました。

(二) 現代の上多度

① 各部落のなりたち

小倉（北小倉・南小倉）

大字小倉と大跡新田が合併して小倉ができました。江戸時代、小倉山中から鉛鉱を産出していました。今は、廃坑となり大きな掘穴が残っています。昭和になって、マンガン鉱もほり出されたこともありました。また、前並といわれる津屋川の西側は、よく水がつき通学路も通れなくなりました。やっと念願がかなって、昭和三年頃には駒野に排水機が



昭和二四〜四八年の校舎（小倉）

舟の終点

鷺巣は津屋川の舟運の終点として「寺橋」まで舟がのぼってきました。

当時は駒野までは小さい舟で行きそこで大きい舟に荷物を積みかえて桑名から遠く名古屋まで行き、物資の交流を行いました。

大正時代までは、鷺巣に七隻の舟と七人の船頭さんがいて、日用雑貨品を運んできました。

設けられることになりました。

鷺 巣

むかし、孝子源丞内の子孫が白山権現の夢のお告げで、大木の枝に登って鷺の巣から二個の卵を見つけました。これが全部金銀の宝珠だったという話から、この地名ができたといわれます。

津屋川の舟の終点として昭和初期まで伊勢湾との物資の交流がありましたが、土砂の堆積で舟行が困難となったため、今は土間の跡と燈明が残っているだけです。

田



孝子源丞内の石像

(養老駅前)

有尾新田と津屋新田が合併して、明治八年田村となりました。

低湿地であったため、悪水に悩まされ洪水に苦しみましたが、堀田は、昭和五十年の土地改良工事によって近代的な美田となりました。それで水郷独得の田舟による田園風景は見られなくなりました。

昭和五七年頃より淡水の真珠養殖もはじめられました。

### 有尾

三郷地域では、一番早く開けた土地で、ここには明楽寺も建てられました。

低湿地帯の象徴であった堀田は、昭和四〇年の土地改良工事によって埋められ姿を消し

明楽寺（有尾）



## 西小倉の開拓

昭和二三年頃から開拓が始まりました。

初め三七軒の人が入植しました。全員がせまい合宿所にとまりこんで、自分の家が建つまで歯をくいしばって働きました。

土地がやせていて、さつまいもを作っても湯のみ位のものが二つもできればいい方でした。

とても生活が苦しく昼間は勤めに出て、その金で農具等を買ひ、休みの日に開こんを続けました。

近くの農家からも農具や生活用品の助けがありました。

ました。

横屋

有尾新田、津屋新田などと同じころに開拓された土地です。（七九ページ参照）

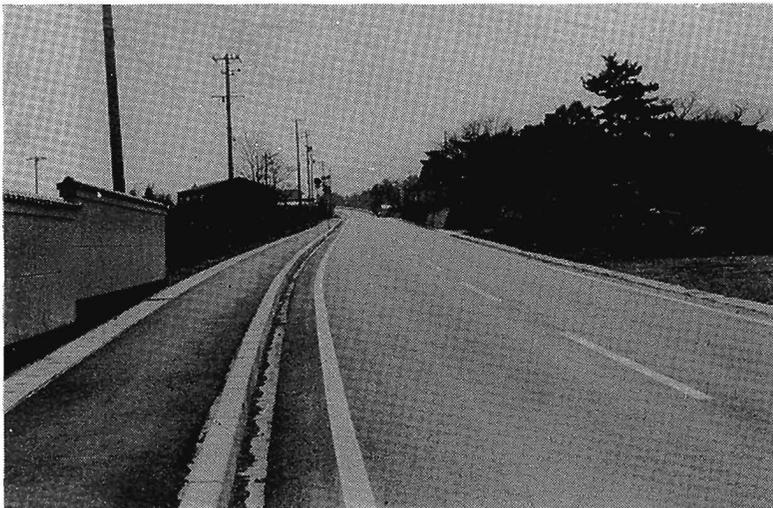
西小倉

戦争中満州の開拓に従事していた人々が、戦後引きあげてきて小倉に入植しました。最初は電灯がなく、ランプの光で暮す悪条件の中で松林を開墾しました。

昭和二九年町村合併のとき小倉から分離、西小倉として発足しました。

若宮

もと下多度村でしたが昭和二九年南濃町に合併し、昭和三〇年に船見、一色などと共に



道路も整理されてきた西小倉

早くから  
開けた若宮

若宮に建てられた大垣共立銀行の研修所の上には、昔の水田の跡があり、今でも石積み跡が残っています。

養老町に合併しました。

古墳もあって相当昔から開けていたところ  
です。細い道や坂道も多く、竹やぶの多いところ  
です。

船 見

津屋川の舟運が盛んだったころ、上下する  
舟を見たから、この名まえがつけました。

今も津屋川岸に土場の跡が残っています。

一 色

もと下多度村でしたが、若宮と同じように  
昭和三〇年に養老町に合併しました。

昔は船頭さんも住んでおり、伊勢街道沿い  
に栄えたところでした。

伊 勢 街 道

養老山のふもと標高七〇メートル位  
のところに細い山道として残っています。  
東海自然歩道がこれにあたっている  
ようです。桑名街道とも重なっている  
ところが多いです。



養老鉄道株式会社

現在の近鉄養老線である。

この鉄道の設立に努力したのは、

「立川建次郎」です。

一八六二年、大垣藩士清水恒右衛門の二男として生まれました。

立川清助の養子となりました。

弁護士として活躍後京浜電気鉄道会社（京浜急行）、ついで東京電力会社を創立しました。

② 交 通

一九一一年（明治四四年）七月に養老鉄道\*

株式会社が設立されました。養老線は、一九

一三年（大正二年）に池野―養老二四・七

キロメートルが開通しました。

開通当時は、小さな汽車が客車をひいてい

ました。

一九一九年（大正八年）揖斐―桑名間全

線開通しました。一九二二年（大正十一年）

揖斐川電気鉄道株式会社に、次に関西急行鉄

道と変遷し、昭和一九年いまの近畿日本鉄道

になりました。

現在には、自家用車が普及したためあまり



近鉄養老線

上多度校下を走る  
近鉄バス廃止

昭和五十一年、桑名まで走っていた直通バスを廃止して駒野までになりました。

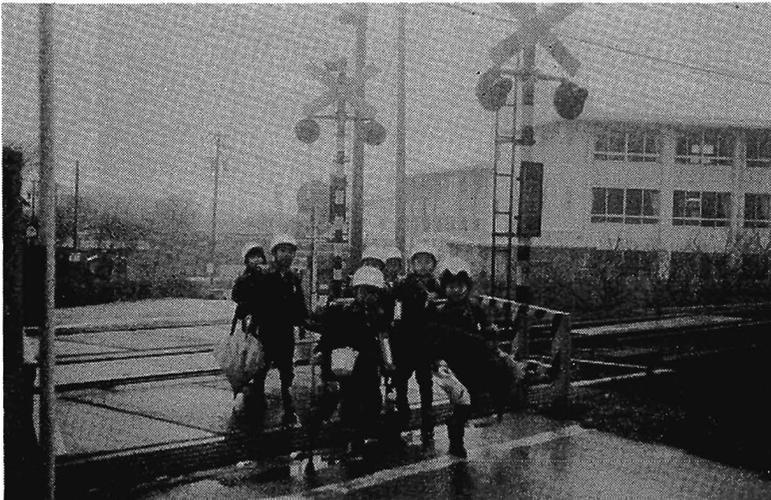
昭和五十七年七月一日乗客減のため駒野までも廃止され養老駅前までになりました。

昭和五十九年までは休止扱いでしたが、この年正式に駒野線は廃止されました。

利用されなくなりましたが、長く町民の足でした。

現在でも、上多度小学校のすぐ西を通っており、駅前、西小倉、若宮、一色の子たちは踏切をわたって毎日通学しています。

朝夕は、大垣や岐阜へ通勤や通学する人たちで混みますが、日中は、乗っているお客さんが少なく近鉄の会社も赤字で困っています。  
\* 又、近鉄バスも学校の近くを通っていますが、お客さんが少なくなり、廃線になりました。



踏切をわたって通学する子等

三川分流

木曾、長良、揖斐の  
三つの川はそれぞれ  
輪中をぬうように流  
れているため数多くの水  
害を引き起こしました。

明治二〇年、オラン  
ダ人デレーケを中心  
に三川を分ける工事に着  
手し、明治四四年一応  
完成しました。

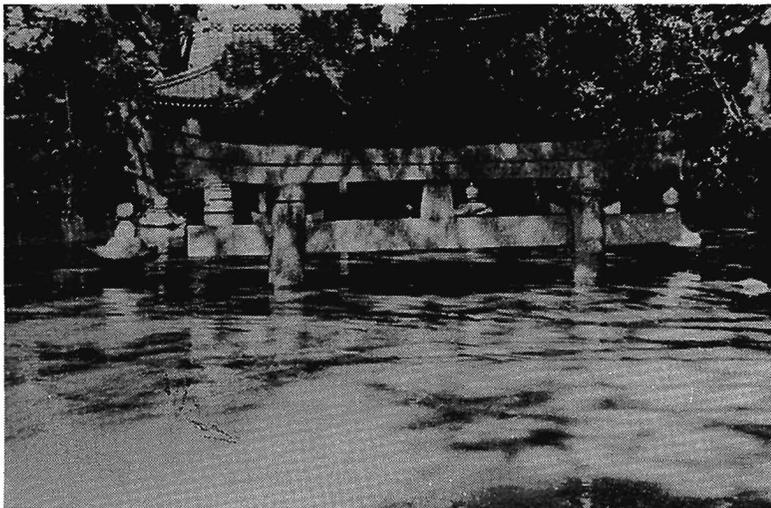
(四) 水とのたたかい

① 低い揖斐川

濃尾平野は、およそ五〇万年前は海でした。  
上流から土砂などが流されてきて積もり平野  
になったのです。

この土砂がたくさん流れる木曾川が高く、  
少ない揖斐川がおそくまで海としてのこされ  
ました。そのため養老町の南部は、土地が低  
くなっています。

江戸時代のなかばまで、木曾川、長良川、  
揖斐川の三つの川は、下流でつながっていま  
した。そのため、木曾川の水は長良川へ、長



水害で水につかった鳥居

## 宝曆治水

徳川幕府は薩摩藩にお金を使わせて勢力を弱めようと、木曾、長良、揖斐川の治水工事を命じました。

家老の平田靱負を総奉行として、千人ほどの薩摩藩士が難工事を完成させました。

平田靱負は、工事のために大金を使ったことに責任を感じて切腹しました。

今も池辺には、その顕彰碑が建っています。

良川の水は揖斐川へ流れこみます。

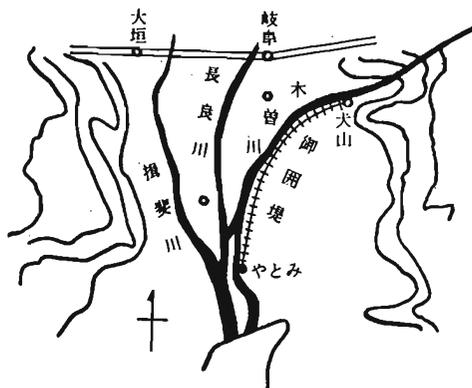
大雨のときには、揖斐川の水は流れが止まるだけでなく、下流から上流へ逆に流れることもあったのです。ついには堤防がきれて大水害となったこともあるのです。

## 御囲堤

一六〇九年（慶長一四年）江戸時代のはじめ、尾張藩（愛知県）は、美濃（岐阜県）とのさかいに、りっぱな堤防をつくりました。

この堤防を御囲堤といいます。てきがせめてくる時の守りのためと、徳川幕府にとって大切な尾張を水害から守るためのものでした。

「美濃の堤防は、御囲堤より三尺（九〇セ



美濃に水害をもたらした御囲堤

輪 中

土地が低くて水につきやすい地方では、その村のまわりを堤防で囲み水が入らないようにして、家や田畑を守りました。  
この堤防で囲まれた中の地域を輪集といいます。

ンチ) ひくいこと。」大水で堤防がこわれた時は、尾張がなおるまでなおしてはいけない。」というきまりがありました。

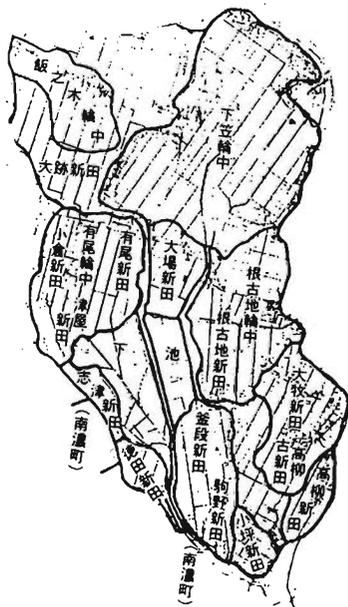
尾張は水害がなくなり、美濃では水害が多くなったのです。

上多度の輪中\*

木曾川、長良川、揖斐川の流域は全国的にも有名な低地で、何回も洪水に見舞われる輪中地帯です。

金草川、牧田川、揖斐川、津屋川に囲まれる地域は、昔から多芸輪中といい、一万五千石あまりの大きな輪中です。

この大きな輪中の中に、小さな有尾輪中や



堤防で囲まれていた輪中



鬼面山谷五郎 錦絵

一石

米をはかる単位。

一五〇キログラム

二俵半

一〇斗のことです。

上多度の堤防の補強

津屋川の堤防などはかさあげをされて、強くジョウぶになりました。

また、薩摩義士の方のご苦勞でできた堤防も一部ありました。

下笠輪中しもがさわしゅうちゅうがあり、それらの輪中を複合輪中ふくごうわしゅうちゅうと  
いいます。

しかし、これらの小輪中の堤防ていぼうは、今は、  
こわしてしまつたものが多く、ライスセンタ  
ーの北側の堤防ていぼうのように、ところどころに昔  
の面影おもかげを残のこしています。

輪中地帯に住む人たちは、水害を少しでも  
減へらそうといろいろ工夫をしました。

水害

明治の新時代になつても、水害は毎年  
のよに繰くりり返かえされました。

台風や大雨で堤防ていぼうが切れかかたときは太  
鼓たいこをたたき、決壊けつわいして緊急避難きんぎょひなんの場合は早鐘はやかね



伊勢湾台風で堤防ていぼうが決壊けつわいし水につかつた家

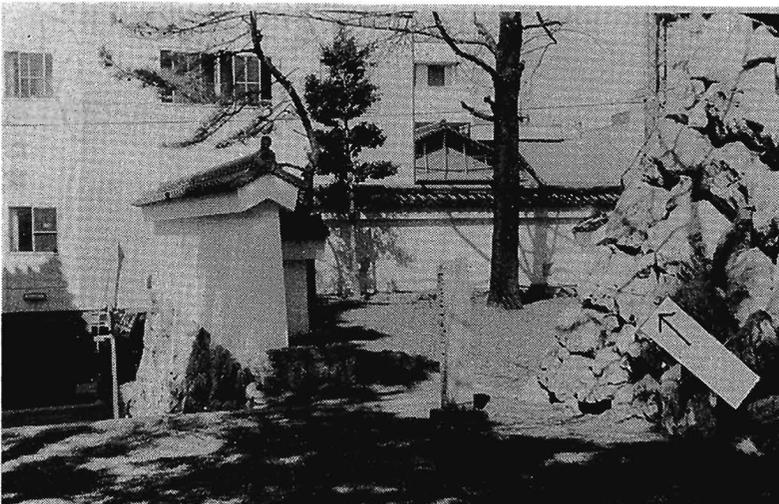
をついて知らせました。

とくに大水害をうけたのは、一八九六年（明治二九年）九月の大洪水で、西南濃地方の河川はことごとく決壊しました。

赤坂まで大海原となり、大垣城の石垣の中段まで水位が高くなったといえます。

現在でも、石垣の西北にその時の水位が標示されています。

また、一九五九年（昭和三四年）九月の伊勢湾台風では、愛知県の鍋田干拓地で多数の死者がでました。養老町でも八月と九月に大水害に見舞われ、三郷地区は天井まで水にかりました。



明治二九年九月の大洪水で浸水した水位（大垣城の石垣）

## 津波

海底でおきた地震によつてできた大きな波非常に高い波になっておしよせ、大きな被害をもたらします。

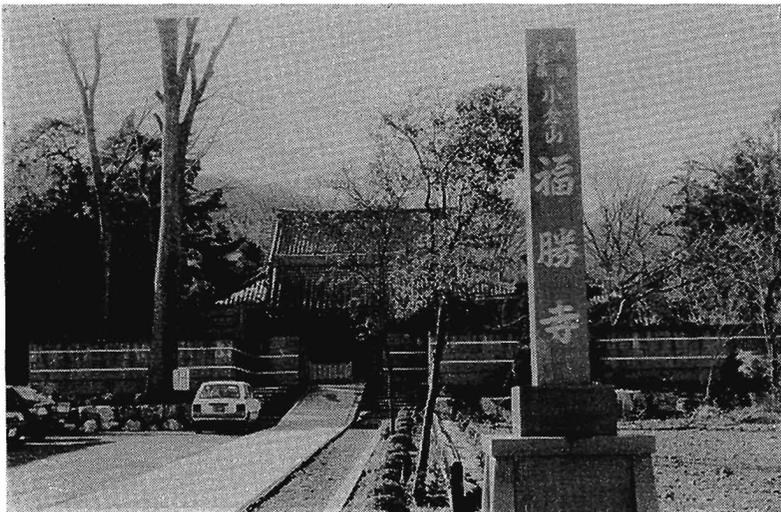
### 横屋のおじいさんの話

この辺りは、海抜〇メートル地区、昔から水には大変苦勞しています。伊勢湾台風のととき（昭和三四年）は、八月にも池辺の根古地が切れて水がついた後なので、早くから避難の準備はしていました。

水は池辺の方から津波のようにおしよせ、大変こわかったです。家にそなえつけの舟に米俵や大切なものを積んで福勝寺（めぐみ保育園）へ逃げました。

それから一〇日ほど水につかたままで、麦や野菜はくさり、にわとりも死んだりして悪臭がたちこめ困りました。

天井まで水につかたので、二階から



福勝寺（めぐみ保育園）

（南小倉）

出入りしたことを覚えています。

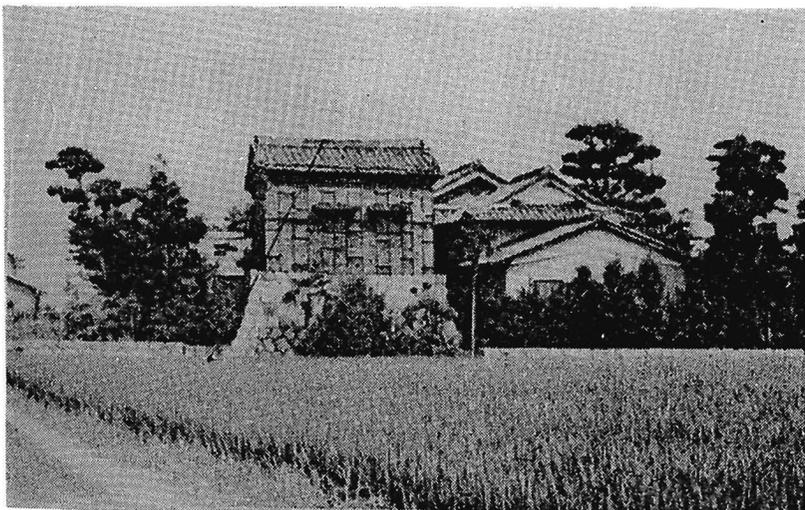
もう二度とこんなめにあいたくありません。

## ② 洪水の時の工夫

昔から何度も大水に見舞われている三郷地区では、洪水にそなえていろいろな工夫をしました。

### 高屋敷

屋敷をつくるのに石垣で囲って高く土を盛



水屋のある家

り、五メートルほどもある高い屋敷にし  
ました。

水 屋

高屋敷にして、さらに一か所だけ石垣で高  
く積みあげ、その上に小屋を建てて水の入  
った時避難しました。

屋敷森

屋敷のまわりに木や竹を植えて囲ってある  
のを屋敷森といいます。特に西側や北側には  
大木を植えて、冬の伊吹おろしをさえぎりま  
した。そして洪水に家が押しつぶされたり、  
戸やかべがやぶれるのも防ぎました。また、  
家の中から浮き出した着物や道具などが屋敷  
の外へ流れ出るのを防ぎました。



北西の風を防ぐ「屋敷森」

## あげ仏壇

仏壇の置いてある部屋の天井がはずせるようになっており、二階の天井裏に丈夫な滑車がつけてあります。

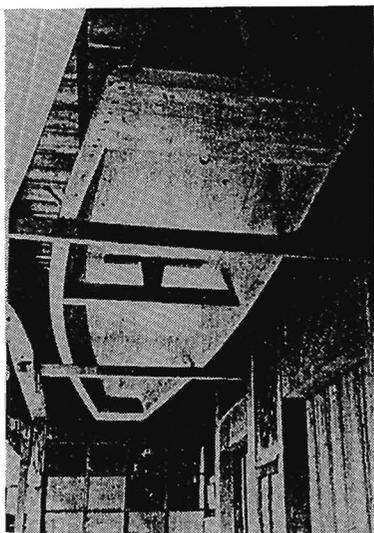
洪水のときには、大切な仏壇や米俵を二階に上げて水につかるのを防ぎました。

## あげ舟

いつも軒下や天井裏に小舟をあげておき、水が入ったとき、その小舟に乗って避難したり、物を運んだりしました。

## 水防倉庫

洪水にそなえて、およそ堤防上一キロメートルごとに設けられており、むしろや土のうなど水防に必要な材料や道具がしまっており



ひなんするのに使った「あげ舟」

ます。

上多度地区には、源氏橋の近く、小倉の津屋川堤、横屋などに今でもあります。

横屋のおじいさんの話

三郷地区の人々がふだん心配していることは、地震、洪水、田植えの水入れ、などです。それは、土地が低く地盤がやわらかいからです。

また、田の水取りは津屋川の水門からとっていましたが、最近津屋川の水位が減ったので、ポンプ三台で下の用水路から水を入れています。

洪水については、今でも少し大雨が降



水防倉庫（鷺巣）

ると心配しんぱいしますし、掛い斐川、牧田川が増水すると、役場から「避難準備」の命令がでます。

#### 四、学校のうつりかわり

##### (一) 明治のはじめ

専明寺せんみょうじでは、古くから寺子屋教育が行われていました。上多度にはじめて学校ができたのは明治六年四月でした。(四か所)



専明寺 (鷺巣)

- ・鷺巣村 竜門義校 専明寺
- ・小倉村 読雲義校 瑞篁寺（観音寺）
- ・三郷村 悠久義校 明楽寺
- ・南部 登高義校分局 西林寺

〇〇学校となったころ

明治九年から一四年にかけて〇〇学校という言い方にかかりました。

竜門義校は、八千代学校として鷺巣長屋野に建設され石畑、白石、明德、鷺巣、四か村の組合立の学校でした。

読雲義校は、悠久義校を合併して読雲学校として小倉村にできました。

登高義校分局は、登高第二学校となり、さ



観音寺山門

（南小倉）

らに登高小学校とあらためられました。

学校に反対する人たち

この頃、新しい学校に反対する暴動がおこり学校や学校に関係のある有力者の家々が焼きはられました。

理由は、女子やお百姓の子に教育を受けさせると社会のしくみを乱すものになるというものでした。それに子どもも大切な働き手だったのです。

テストで進級、高い授業料

明治一二年頃の小学校は、今のように学年や入学期日ははっきりしていなかったのです。

六か月ごとにテストがあり、合格した子だけが進級できたのです。ですから、同じクラ



西林寺（一色）

スに四つも五つも年のちがった子たちが机をならべていたのです。

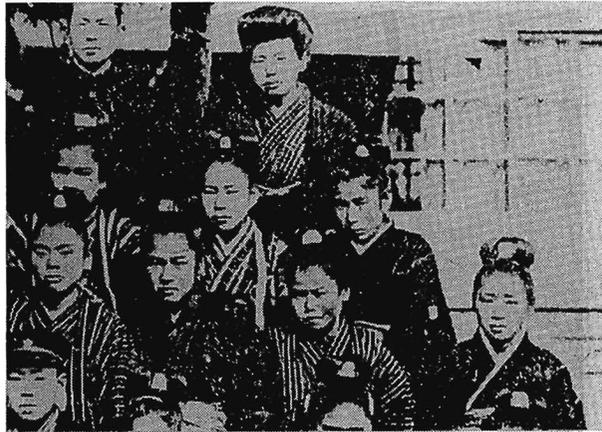
今の小学校は、授業料はいらないのですが、そのころは一か月一銭ほどでした。

そのころの一銭はなかなかの大金であり、学校へ行きたくても行けない子が多かったのです。

そうした子どもたちは、農業や山仕事、つもりや糸ひきなどに働きにいて、家のくらしを助けてました。

## (二) 義務教育となつたころ

明治一二年に小学校は義務教育となり、年



ちごまげ、羽織り・はかまの服装。みんな和服。先生はつめえりの洋服。

明治時代の服装

## 濃尾大地震

一八九一年（明治二十四年）一〇月、岐阜県に起きた大地震。これによって根尾断層ができました。

限は三か年で年間十六週以上通学しなければならぬと定められました。

明治一四年に登高小学校と改称され、その学校にみえた大橋久作先生は、明治八年から三〇余年も同じ学校に続けて勤められました。

明治九年には、小倉三郷地区の読雲学校を小倉小学校（小倉村）とあらため、八千代小学校を鷺巣小学校とあらためました。

明治二四年の濃尾大地震や明治二九年の大洪水などで学校も大被害を受け、廃校や統合が行われました。

明治三〇年、多芸郡と上石津郡の両郡を合わせて養老郡とあらためました。明治三一年小倉尋常小学校と鷺巣尋常小学校を合併して



濃尾大地震で倒れた家

（明治二四年）

上多度尋常小学校とあらためました。

授業料無料

明治三十三年に義務教育は四年となり、授業

料は無料となりました。

科目は、修身（のちの道徳）、国語、算術

体操が中心で、そのほか日本地理、日本史、

外国地理、理科、図画、唱歌があり、裁縫は

必要におうじてつけ加えられました。

明治三四年に津屋尋常小学校に高等科がふ

え、下多度尋常高等小学校となりました。

明治三六年に有尾に新校舎が完成し、小倉

から移転しました。

明治三八年九月に、上多度農業補習学校が

増設されました。

明治三十三年小学校五年の

小学読本（教科書）

乙 花



四つ立つばらくと落したりけるに熊驚きて抱きたる石を手ばなしければ其下なる子は芥も上げえずおされ死にけり。熊は己が過とは思はず誰か殺したるものあるならんとなきさけびて彼方此方を手ね回りしに折しも少し隔りたる岩かげに犬なる猪一つふし居たりけり。熊はこれを見て我子のか

丙 爪



たきとや思ひけん爪をはりてたけりかゝりしかば猪むくと起きとがり牙かみ鳴らして立ちむかひき。男はまたゞきもせずして見居けるに熊と猪とは互にはせ違ひつき當り熊かきむしれば猪牙にかけ凡と平時許りも負けず劣らず

ちごまげ

明治の終わり頃、少女たちが結った髪型です。

頭上に高く輪を左右につくりまします。



「稚見醫」

義務教育六年

明治四一年義務教育は延長され、尋常科は六年間となりました。

教科は修身、国語、算術、体操のほか地理歴史、図画、裁縫がふえました。

このころの小学生の服装は木綿がすりで、筒袖の着物と羽織袴、そしてはきものは、わらぞうりでした。

女子は、かみの毛を「ちごまげ」にしてみました。

通学用のかばんはなく、ふろしきに学用品を包んでいました。ノートなども半紙を切つてとじたものや石板に石筆で文字を書いて勉強しました。

明治三九年 小学校四年の

小学読書（教科書）

<p>ニアルノハソノドーゾーノエ          デス。正成ハムカシ、テンノーノオタ          メニ、ハタライク、エライ          人デス。          東京ニハ、マタ、銀座通ト          イフ、ニギヤカナトホリガ          アリマス。コノエハソノ          トホリノエデス。</p>	<p>店          グランナサイリカハノミチニハ、人          ガ、オホゼン、アルイテキテ、マンナカノ、          ヒロイミチニハ、デンシヤヤ人カ車          ガトホ、テキマス。          マタ、リ、カハ、ニ、リ、バナ 家ガ、タキ          サン、ナラン、タ、テキマス。コノ、リ、バナ          家ハ、ミン、大、イロイロ、ナ、モノ、ヲ、ウ、          テキテ、店ガ、タイソ、キレイ、デス。</p>
--	--

大正時代の学校

大正四年には、明治四五年九月の大暴風雨でいためつけられた有尾の南校舎が新築されました。

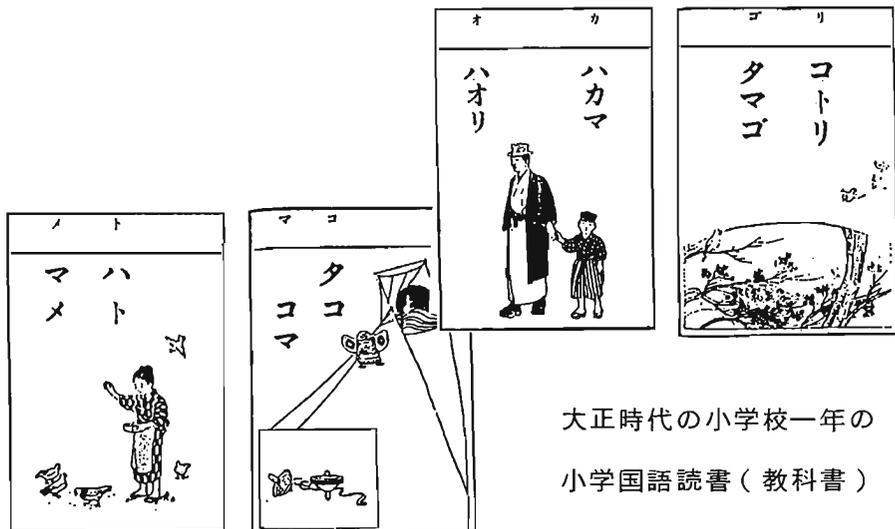
大正五年には、上多度尋常高等小学校とあらため、高等科には三人が入学しました。

昭和の初めころ

昭和の初めごろには、幼稚園が併設へいせつされました。

昭和八年、初めて国語の教科書が色刷いろすりとなりました。

昭和一六年、上多度国民学校となりました。今まで四年以上が勉強していた理科は、一年生からになりました。



大正時代の小学校一年の  
小学国語読書（教科書）

六・三制

昭和二二年四月に決  
められた学制。

小学校六年間

中学校三年間

高等学校三年間

大学 四年間

の六・三・三・四にな  
ったことをいいます。

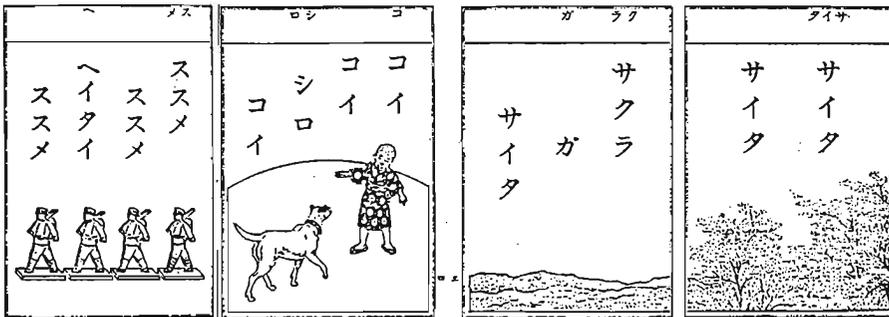
(三) 戦後の上多度小学校

昭和二〇年八月に終戦になりましたが、翌  
二一年一二月二一日に南海大地震があり、北  
舎や渡りろうかが倒壊したため、専明寺や明  
楽寺、福正寺など七か所で分散授業をしまし  
た。

六・三制\*

昭和二二年、新学制（六・三制）によつて  
高等科はなくなり、養老町上多度小学校とな  
りました。

昭和二四年、現在の運動場の北半分に新校



昭和20年以前（戦前）の小学1年の

小学国語読本（教科書）

舎が落成しました。村民の方々の大変な協力があつたのです。三教室の間仕切りをはずすと講堂として使える建て方でした。

水谷文庫の贈本始まる

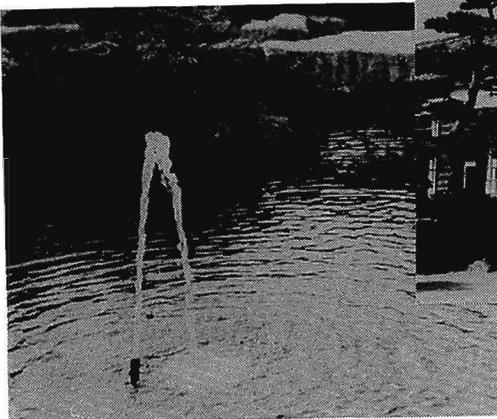
昭和二五年九月、上多度小学校に図書館ができました。終戦後で本もあまりなく、どの子も図書館の本をむしゃぶり読んだのです。

この年に上多度出身の水谷三郎先生から毎月一〇冊ずつ児童用図書の寄贈が始まり、今日でも続いています。

昭和二九年、東海三県学校図書館のコンクールで一等賞を受けました。

この年町村合併により養老町立上多度小学

池にあったふん水



昭和24年の新築校舎

新校舎（木造）

完成

木造平家建の細長い校舎が二棟、終戦後のあらゆる物資が不足している中で立派に新築されました。

学校の位置が決まるまで何回も夜を徹して話し合いが行われ、「暁の村会」といわれました。

その結果、地震に強い土地で水害にも安心できる高い現在地が選ばれました。

校地が決定されてからは、不自由な淋しい分散授業をしている子どもに一日も早く新しい学校を建ててやりたいと村民一つ心になつてがんばりました。

「飯米をへらしてで

校と改称しました。

昭和三〇年四月一日、一色、船見、若宮が南濃町から分かれて養老町になり、上多度小学校の校下になりました。

伊勢湾台風などで三郷地区水没

昭和三四年八月一三日の集中豪雨と九月二六日の伊勢湾台風により、二度も牧田川が決壊し、多芸輪中のほとんどの地域が水没しました。特に集中豪雨のときは四〇日以上も水没したままで、動物の死がいが悪臭を放ち、その惨状はすごいものでした。



東海三県学校図書館コンクール  
一等賞のカップ（昭和二九年）

も」の合い言葉でお金を出し合い立派な新校舎を完成させました。

学校給食始まる

昭和三五年給食室が完成し、完全給食になりました。それまでは、家から持って来た弁当と、給食に出た牛乳や味噌汁を食べていたのです。

読書で優秀賞を受賞

昭和三九年に、校内読書感想文水谷賞が始まりました。

昭和四〇年「読書百遍の碑」も完成し図書館特別表彰（県教育委員会、中日新聞社より）を受けました。

続いて昭和四二年には、図書館最優秀賞（県知事より）を受けました。さらに、四四



「読書百遍の碑」完成  
（水谷三郎先生書）

### 簡易プール完成

昭和二六年九月一日  
戦後資料不足のため、  
竹筋コンクリート（鉄筋のかわりに竹を使用しました）のプールが完成しました。（現在公民館の建っている場所）  
完成の時は、オリンピック選手の兵藤（前畑）秀子さんを迎えて盛大にプール開きが行われました。

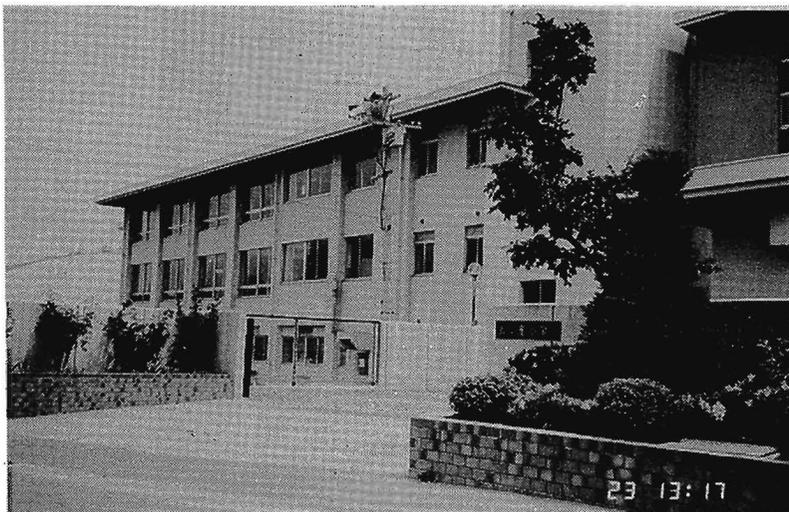
年には、図書館教育で特にすぐれた成果をあげている学校に与えられる「学研教育賞」（文部省、学研より）を受けました。

### \* プールや新校舎完成

昭和四五年、念願のプールが完成しました。  
四八年には、創立一〇〇周年記念碑「創造」の建立や一〇〇周年記念誌「創造」の発行など多彩な祝賀式典が行われました。

昭和五二年、屋内運動場（体育館）、翌五四年には新校舎（教室棟三階建）、翌五五年には管理棟、特別棟（各三階建）が完成しました。

どの教室も暖房完備のすばらしい建物でした。



鉄筋三階新校舎完成  
（昭和五四年）

特別教室の設備

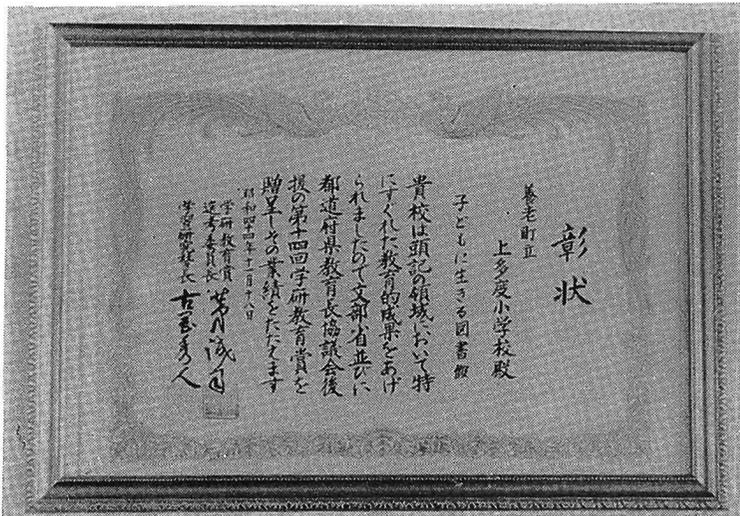
◎音楽室

- ・MLシステム
- 親機一台、子機二  
二台
- ・四アンド四カセッ  
トレコーダー
- ・ステレオ
- ・グランドピアノ
- ・電子オルガン

◎視聴覚室

- ・テレビ五台
- ・ビデオ
- ・アナライザー
- ・ラジオ付プレーヤ
- ・実物投影機

た。



図書館教育の最高賞

「学研教育賞」受賞

## 五、上多度の文化

### 鷺巣白山神社

白山神社は鷺巣の鎮守の神であり、十月十日が祭礼です。その祭礼には、白山太鼓があります。

創建年月日は、わからないが、昔から「いのちの神」として仰がれています。

日本の神話で知られているイザナギ、イザナミの命と菊理姫の命が御祭神です。

境内には昔を偲ぶ巨木が石仏をまきこみ、のぞき仏として境内におまつりしてあります。門が鳥居ではなく瓦ぶきである事は、神仏



白山神社

習合や白山信仰との関係と考えられています。

この頃から日本に神仏併祀が行われたので、また、鬼面山寄進の常夜灯もあります。

### 白山太鼓

祭礼には、古くから祭礼太鼓が打ちはやされます。

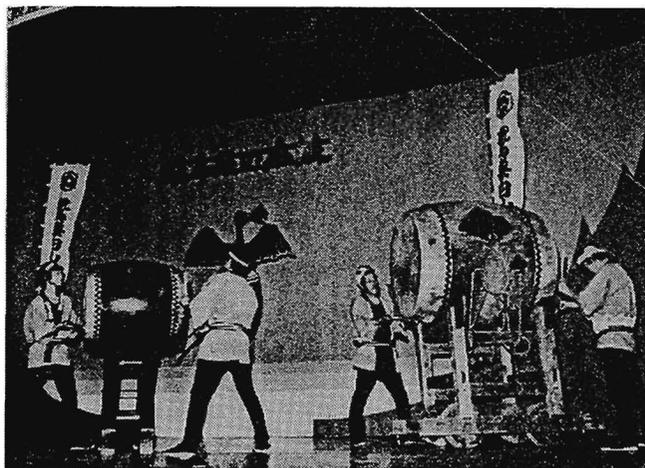
昔は、村の青年が祭の前になると練習をはじめたのですが、終戦後は後継者がなくなってきたので、鷺巣白山太鼓保存会を結成して今も受け継がれています。

### のぞき仏（延寿観世音菩薩）

昭和四七年十月十月入仏式もすませ、白山神社境内におまつりしてあります。

鷺巣白山神社の

「祭礼太鼓」



御由緒

昭和四一年二月大倉重兵衛さんが脳溢血で倒れて身があぶないある夜、観音様が重兵衛さんの夢枕に立たれ、

「わたしは、白山神社の拜殿前の大木の根元に巻き込まれているから、陽が拝め参詣人に会えるようにしてほしい。」

と言われたそうです。重兵衛さんは、自分が動けないので田中義一さんに頼み根元のまわりを探してもらいましたが、なかなか見つかりませんでした。

しかし、かどまつ立てに集っていた宮総代の人々も協力して、やっと根元右側を切り開いて探し出しました。それから重



のぞき仏（鷺巣白山神社）

兵衛さんは、日一日とよくなり、自分でお参りが出来るようになりました。延寿の靈験あらたかな観音様です。

### 薬師堂

白山神社のかたわらに薬師如来が安置されています。御本尊薬師如来は、多芸七坊の一つ光明寺の御本尊です。

「生きているうちは、医者と薬剤師を兼ね死ねば極楽に往生させてくださるお薬師さん。」  
と、今も村の人々の厚い信仰に守られています。

また、三三観音という御分身（観世音菩薩）



薬師堂

が御堂の中に安置されていて、西国三三か所としても名高いものです。

左<sup>\*</sup> 義<sup>\*</sup> 長<sup>\*</sup>

「どんど」といわれ一月一日に左義長行事を行ないます。正月のしめかざりやかど松古い御札などをもやし鏡餅を焼いて食べます。その餅を食べるとその年は病気にかからないといわれています。

左義長行事に引き続き、鷺巣では粥占が行われます。養老郡内においても、いろいろな形で行われています。



左<sup>\*</sup> 義<sup>\*</sup> 長<sup>\*</sup> (鷺巣)

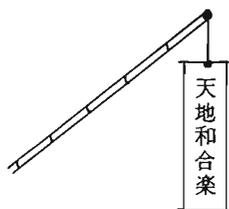
左義長

書きぞめとして

- 天地和合楽
- 地福円満楽
- 家内安全楽
- 国家泰平楽

のように書いて竹の先につけて火をつけました。

燃えて遠くまでとんでいくと字がうまくなるといわれて子どもたちは、楽しみにしていました。



有尾八幡神社

祭神は大湍明神といわれています。同神社

境内薬師堂に円空作薬師如来像（なたぼくさん）が安置されています。

元禄の頃、出水の際、同地に流れつかれた

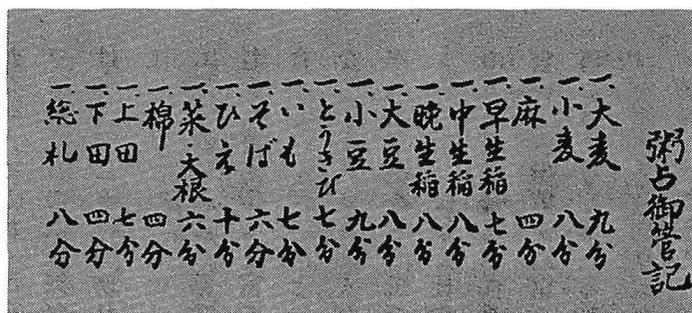
と伝えられ、なたぼくさんと呼ばれて子ども達からも親しまれていました。

裏川でこの仏像を抱いて泳ぐと早く上手になるといわれました。

また、おこりにかかった時、ぞうりばきでお参りし、ぞうりをぬいで後ずさりで帰るとすみやかに全快すると伝えられ、今でも多くの信者を集めています。

（昭和三九年六月一五日町指定文化財）

（昭和三九年六月一五日町指定文化財）



2つ割りにした竹の管の中に多くの粥がつまっていれば豊作と喜ばれました。

## 赤岩神社

養老公園の南西三キロ、小倉谷の奥にある神社。この地にあった蛇淵に三重県多度町一目蓮神社の弟神といわれる男竜神、女竜神が住んでいて、水難、火難からこの地を守っていたといわれています。近年は無病息災、商売繁盛、家内安全などが祈願され信仰されています。

## 赤岩神社\*

金堀山の南側一帯は、「蛇淵」といって大きな池でした。昔そこに大蛇の雄雌二匹が住んでいたといい、今でもよしがとところどころに生えています。

その後幾年月を経て何回かの天変地変によって蛇淵の姿も今のような川原になってしまいました。

蛇淵の主であった大蛇は赤岩石に化身し、現在竜神として奥の院に祀られています。

赤岩大神がそれです。

## 金堀山

今から一六〇年程前の一八二六年（文政九



赤岩神社

高札場

法律的なきまりやおきてをはり出した場所  
で人通りの多いところ  
に作られました。

小倉八幡神社

明治六年一月に第三  
九区の郷社としてまつ  
られました。

小倉村、大跡新田、  
有尾村、横屋村、大場  
村、大場新田、根古地  
村、根古地新田、志津  
新田、津屋新田、の一  
〇ヶ村の総氏神として  
祭典が行われてきまし  
た。

年）小倉の庄屋日比善六さんが金鉾脈を求め  
て山々を探していました。

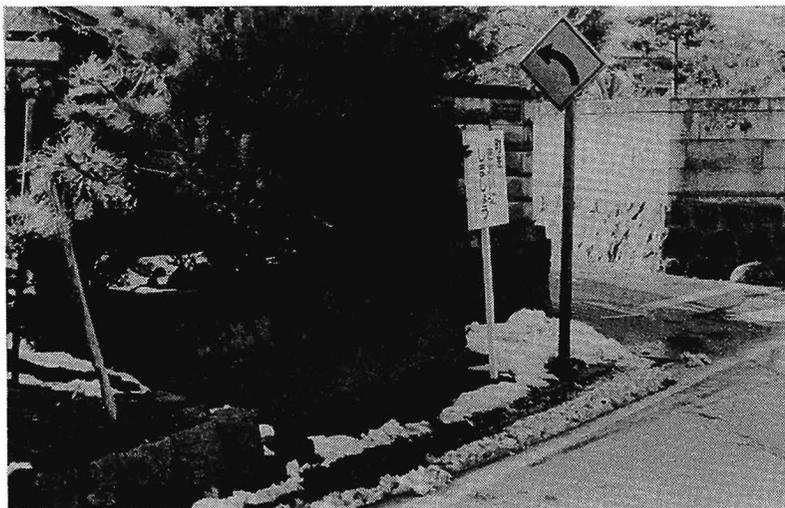
時は幕府が新しい金鉾脈発見を奨励してい  
た時です。祖先の抱いた黄金の夢は果されず、  
夢のあととして金堀山の名が残されています。

小倉高札場跡（町指定記念物）

今はおもかげもなく、何の標柱もありません。  
県道わきに、石がきが残っています。村  
人も知らない人が多いようです。

小倉八幡神社

一六七三年（延宝元年）に焼失し、その後創  
建の記録なく不明ですが、かなり古い社です。



小倉高札場跡

終戦（昭和二〇年）までは、校下でただ一社郷社に列せられていました。

## 六、上多度の生んだ人

大牛和尚

小倉山観音寺の開山、元南濃町河戸の小笠原子爵家の菩提寺寒窓寺の住職であったが、享保年間小倉村に観音寺を開き隠棲した。禅僧として高名である。享保十年六月二十六日没。

鬼面山谷五郎（一八二五～一八七一年）

養老町はもとより、岐阜県としても、たゞ一人の横綱（第一三代）です。



八幡神社（小倉）

鷺巣農家に生まれ、小さい時から大飯食ら  
いの力持ちでした。二二才のころ、おとな三  
人でやっと運べる大石を楽々とかついでいる  
のを、通りかかった京都相撲の人に見つけら  
れ、相撲道に入るきっかけとなりました。

鬼面山は全盛時代、身長一八六センチ、体  
重一四六キロの大きな体で、米一二俵を一気  
にかつぎ上げる程の怪力がありました。

取組数は、全部で一九一、勝一四三、引分  
一六、負二四、預入のすばらしい記録を残し  
明治四年四六歳でなくなりました。

鷺巣 玄光  
わしのす げんこう

鷺巣の人で、飯木村の言い伝えによると、



→ 鷺巣



← 養老公園内

玄光は義朝を舟に乗せて飯木村に着きました。同地の伊藤清吉と相談して舟に柴を積み入れ義朝主従をかくまいました。

源氏橋から津屋川を下ったが太田の近くで平氏の兵に検問を受けましたが見つからず、知多半島、野間にのがれました。しかし、そこで殺されました。(平治物語による)

(七七ページ参照)

### 寺倉孫左衛門

先祖は江州寺倉村に住んでいましたが、その子孫、孫左衛門、同治右衛門が小倉村に来て住むようになり、寺倉を姓としました。

関ヶ原合戦(一六〇〇年)の時、高須城主



津屋川の舟着き場にたてられた「燈明さん」

(小倉)

高木十郎右衛門に従って、西軍に属しました。しかし、敗れて志津に住み、後に農業に転業、次男治右衛門は横屋に居住しました。

日比七兵衛

小倉の人、江戸中期、多くの私財を投じて大跡新田の開発に尽力しました。

野村龍諦

鶯巣専明寺の任職で左京といいました。漢籍の造詣が深く若年で文才をうたわれました。近郷の子弟に四書、五経、左伝、史記、文章軌範等を授け、その門に学ぶ者は百數十人に及びました。(明治十四年七月七日)



関ヶ原合戦

憩山

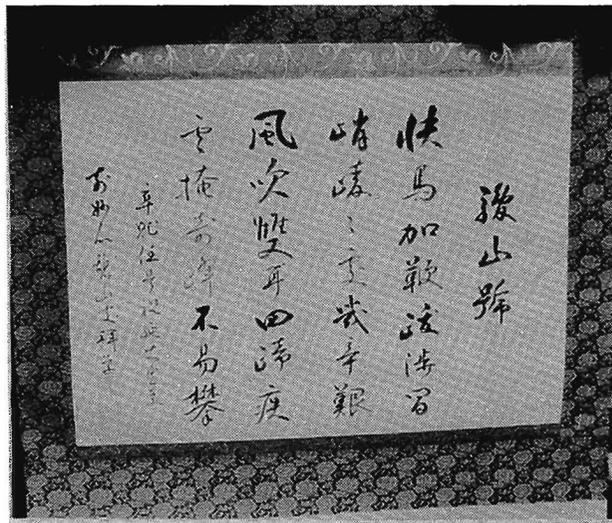
姓は巨富憩山といいました。武儀郡関の大雲寺、揖斐郡船子の平安寺、不破郡宮代の大慈寺の住職を歴任し、小倉観音寺の十世住職となりました。禅僧として知られ、書道が抜群でした。(明治三八年没)

中村常三郎

若いころから勉学が好きで、俳句、作詩、雅楽などにすぐれていました。上多度の村長で公務にも尽しました。(大正一一年没七〇才)

田中準三

憩山の書



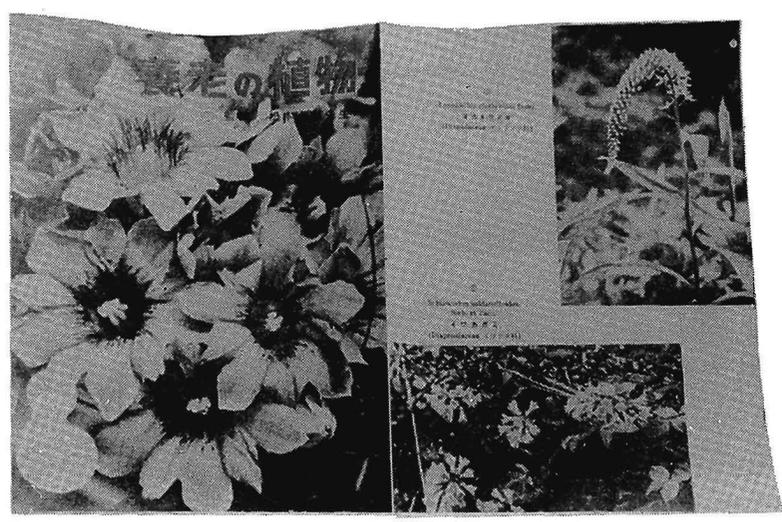
鷺巣村に生まれ（明治末ごろ）大阪控訴院判事をつとめたり、弁護士としても活躍しました。（大正一三年没四八才）

松本 一郎

明治三五年に鷺巣に生まれ、高等学校の教育にたずさわりながら、植物の研究をしました。

退職後も同好者の指導にあたり、「養老山の植物分布」「伊吹山の植物」「夜叉池の植物」等の研究調査を続けました。（昭和四十四年没）

水谷 三郎



松本一郎先生の「養老の植物」

明治三五年に田に生まれ、小学校時代から読書好きで、上京して出版業界で活躍しました。

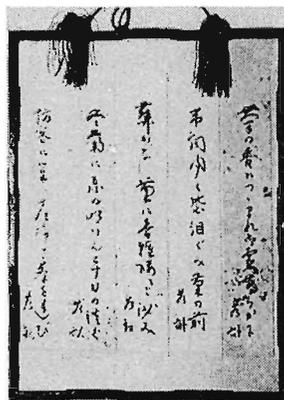
また、国語審議会委員、教科書公正取引協議会幹事としても敏腕をふるわれ、文部大臣より感謝状、自治功労者表彰をうけられました。

母校の上多度小へ昭和二五年から毎月約十冊の優良図書を寄贈し続けられました。今もなお「水谷文庫」として子供達に親しまれています。

昭和五三年亡くなりましたが、ご遺族（水谷和郎夫妻）はその遺志を継ぎ、今も、毎年優良図書を学校へ送りつづけてみえます。



水谷三郎先生



栗田秀敏俳句

日比連運

江戸時代の人、名は兵庫、小倉生れ、俳句を好み、多くの名句を残しました。

田中省吾

明治二九年〜昭和四二年、鷺巣の人、岐阜師範、広島高師、京都大学を卒業、愛知県警察部長、文部省宗教局長、佐賀、香川両県知事などを歴任し、全国的に活躍した人です。

栗田秀畝

明治三三年有尾生れ、名は秀夫、多くの名句を残しました。



引っぱりだこで台本板の多い  
「水谷文庫」

西谷加一

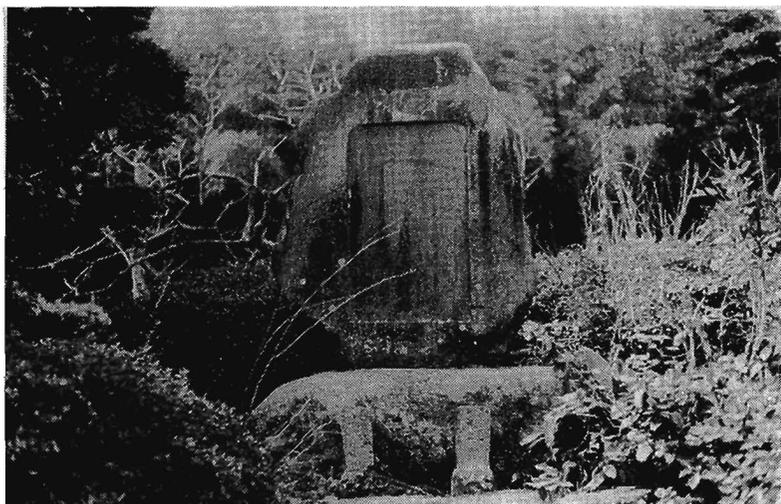
明治七年二月九日生、明治四四年六月三日  
没（三八才）

義務教育がなかった頃、六五名程の青年たちを集めて教育をし、地域教育に貢献しました。

大正二年一〇月に、教え子たちが船見に感謝の心で記念碑を建てました。

日比三十木

小倉の人、明治大正昭和の三代にわたり、三十年間小学校の教職と校長を勤め、後神職となり神事に貢献した。



西谷加一の記念碑  
（船見）

## 一、郷土上多度精神

私たちが郷土の祖先から受けついできた精神として次の三つが考えられます。

その一つは「たくましい根性」です。この「負けるものか」というがまん強さと、それをね返す根性は、昔の人たちの「長い水とのたたかい」から養われたといわれています。

上多度の米ぐらであり、三郷の人たちの生活の場でもある多芸輪中は海拔〇メートルより低く、また科学技術の進んでいなかった時代の人々は、たえず水害とたたかってきました。ひとたび大雨にあったら、田畑は水をかぶったままで、水が引くまで何十日でもじっとがまんするより仕方がなかったのです。この反対に、日照りがつづくときは水ききんとのたたかいでした。

このように水とのたたかいは毎年のようにくり返えされました。しかし昔の人はけっして負けること

なく、いつのまにか立ち上がって荒れた田畑を元の姿にもどしました。これを人々は「輪中根性」といってほめそやしました。七転八起きのがまん強い根性はこうして育っていったのです。

その二つは「あつい孝行心」です。日本一の親孝行むすこ「源壺内」の話を身近かにきいて生れ育った郷土の人たちは、親不孝を最も大きな悪、親孝行を一番高い徳と考えて生活を送ってきました。昔は今のように物の豊かな時代ではなく、着るものも食べものも足りない貧しい村のくらしでしたが、どんなに物がなくても家庭はあたたかく、親子のきずなはしっかりと結ばれていました。これも郷土の祖先がのこしてくれた大切な財産で、現在、私たちの町民憲章にも「お年よりが豊かにくらせる町にしよう」とうたわれていることは、みなさんのよく知るところです。

その三つは「あたたかいたすけ合いの精神」です。たとえば昭和三十四年、突如、おそった、あの伊勢

湾台風の大災害を受けた輪中に住む人たちは命からがら驚巢、小倉、一色の寺や学校、集会場、個人の家などへ避難しました。九〇〇人の災害者をあたたかく保護し、三度の食事のおにぎりを早朝から夜中の二時頃までにぎり続けた日も度々でした。婦人会員の誰の手も、まっかに腫れあがっていません。

一ヶ月ほどでようやく水も引きはじめ、避難者の数もすくなくなり、喜こんだのも束の間、再び豪雨に見舞われ白海と化した輪中の人たちは又も避難生活が始まったのです。続いて二回までも、大災害を受けた人々の保護に全力を尽した地区民の美談は、今でも語り草となってみんなの心の中に生きています。

この美しい助けあい精神は、祖先たちが、長い間の苦しい生活の中から得た尊い精神で、郷土の大切な財産として、いつまでもひきついで行きたいものであります。

(日比屋系乃)

## 二、子どもの仕事

昭和の初め頃までの子どもの生活には、家での仕事がありました。学校から帰ってくると何か仕事が残っていたのです。

子守り：昔は今とちがってきょうだいが多くさんいました。女の子はいうまでもなく、男の子でも小さな赤んぼうをおんぶしている姿がよく見られました。お母さんも田畑に出て働いていたのです。家に赤んぼうがいない子は、近所の家や親せきの子もりに頼まれていく子供もありました。寒い冬の日などに子守りはんてんの中に赤んぼうをすっぽり包んで、頭を手ぬぐいで結んで、おぶった赤ちゃんをゆすりながら、まりつきをしたり、おはじきをしたりして遊んでいました。

なわなない：赤んぼうのいない子供たちは、学校から帰ると、なわをないました。一年坊主、二年坊主も兄たちに教えられ手につばきして一しょうけんめ

いになわないをしました。そのなわは毎月一回か二回集めにくるなわやさんに売りました。そのお金が毎日の生活のいくらかの足しにする、貧しい時代でした。

このなわのないの仕事は、きょうだいや家族ぐるみでやることも、又、友だち同志で神社の大きな木と木の間をまわりながら、きょうそうでなったこともありました。仕事も遊びの一つでした。上級生はわらぞうりも作りました。

落葉かき…秋ともなると、女の子は山へ落葉かきにいきました。当時この落葉は食べものをにたり、おふろをわかしたりに欠かせない大切なねん料でした。年れいにあった大ききのビクを背おって、友だち二、三人と連れ立って山に入り、めいめいが持ち場をきめてガサガサと松ごなどの落ばをかき集めました。

ビク一ぱいを集めるのはたいへんな仕事でした。ギューギュー押しこめばいくらでも入る。うす暮

れるまでかきあつめて、やっと一ぱいになり、重い荷を背おって泣きながら帰ってくることもあった。

そのほかの子供仕事：麦ふみもその一つで、おとなと同じように、冷たい風をさけるために手ぬぐいでほおかむりをしてやりました。麦刈り、稲かり、草かりもやりました。田植えは大きな子は大人に加わって植えたが、小さい子は、早苗の束をボトンボトンとみんなの所にくばって歩きました。そのほか田の草とり、落ちば拾い、稲わらはこび、大八車の先引きなど子どもに出来る仕事はなんでもやりました。また蚕を飼う家も多く、桑つみ、まゆかきも子どもの仕事の一つでありました。女の子のお針仕事もだいいじなもので、そのほか、そうじ、せんたく、すいじなど家事のすべてを母親に代って器用にこなしました。電化製品の全くない時代で全部小さな手でゴシゴシやったのです。時代がすっかりちがった昔の子供の生活ですが、今の子供の生活とひきくらべて考えてみるのもムダではないでしょう。

(日比屋忍乃)

## 編集後記

社会科の副読本「ふるさと上多度」がやっとでき上がりました。

上多度の子ども達にふるさとを学ばせる資料がほしい。そして、自分の生まれたふるさとを良く知り自分のふるさとに誇りと愛着を持つ子に育ってほしい。

このような願いからこの本は作られたのです。三、四年の子でも読めるような副読本を作ったらどうかということで出版計画がたてられたのが昭和五十八年でした。

それから三年間、先生方全員で上多度の様子や歴史を調べたり、先人にお話を伺ったり資料を調べて原稿をかき上げました。写真も何度も撮り直ししました。先輩の方に校正をしていただき何回も書き直してやっとでき上がったのです。

それでも、日教やページ数の関係で、上多度のこ

とを十分書き表わすことができませんでした。

多くの先輩や地域の方々からたくさん資料やご助言をいただきましたが、すべてのせることができず申し訳ないと同時に、残念でなりません。

初版本です。十分活用していただく中で訂正や付け加えをしてより内容を豊かにしていただけたらこの上ない喜びです。

末筆になりましたが、忙しい中貴重な時間をさいて資料を調べ、尋ねて執筆して下さいました先生方、その原稿をていねいに読んでいただき訂正や資料補充をご教示下さった諸先生方、地域の方々からお礼を申し上げます。

力不足で、十分意をつくした編集ができなかったことを心からお詫び致します。また、全校下の人に配布できるようにと資金づくりに協力いただいた区長会、PTA本部役員の方々、全面的に支援していただいたえぎき印刷様に心から感謝申し上げます。

編集責任者 加藤 茂

◎ 執筆者・執筆協力者（順不同）

市橋三千子	内堀不二子	水谷豊子	田中陽子
原 由紀子	安田千恵美	田中真弓	若園孝一
川瀬いづみ	吉田和代	谷口圭子	吉田和世
安部美奈子	金洞了全	古市武彦	寺倉 清
大橋キミ子	松岡三千子	田中 昭	水野富二美
加藤 茂	萩永正保	水野早苗	柳瀬敏子
肥田 智	近藤利子	木村光基	

◎ 資料・情報提供者（順不同）

日比屋え乃	木村重雄	北倉吉一	田中金吾
古市丈一	日比一之	田中由美	栗田 誠
日比せい	栗田邦弘	野津鉄雄	大橋富男
農協上多度支所	上多度出張所	山本牧場	安部敦好
上多度駐在所	高木善吾	古川順通	木村文夫
安福崇文	大橋よしみ	三輪良三	清水清三
北村 隆	田中育次	田中辰男	問山美紀
田中庄次	近藤太治	寺倉章子	中島精一

◎ 参考文献

養老町史	岩波写真文庫	のびゆく養老町
養老郡志全	養老町報縮小版	上多度小記念誌創造
広辞苑	日本の歴史の図鑑	小学館学習科学図鑑
学習子ども百科	岐阜の地理ものがたり	濃尾風土記
西濃の歴史	大事典 desk	郷土誌（岐阜市、大垣市、南濃、明徳）
岐阜のかき	日本の工業（国土社）	

ふるさと上多度

◎ 編集・発行

養老町立 上多度小学校

◎ 刊行

昭和61年 9月 1日

◎ 印刷

エザキ印刷

養老町鷺巣 1645-1

